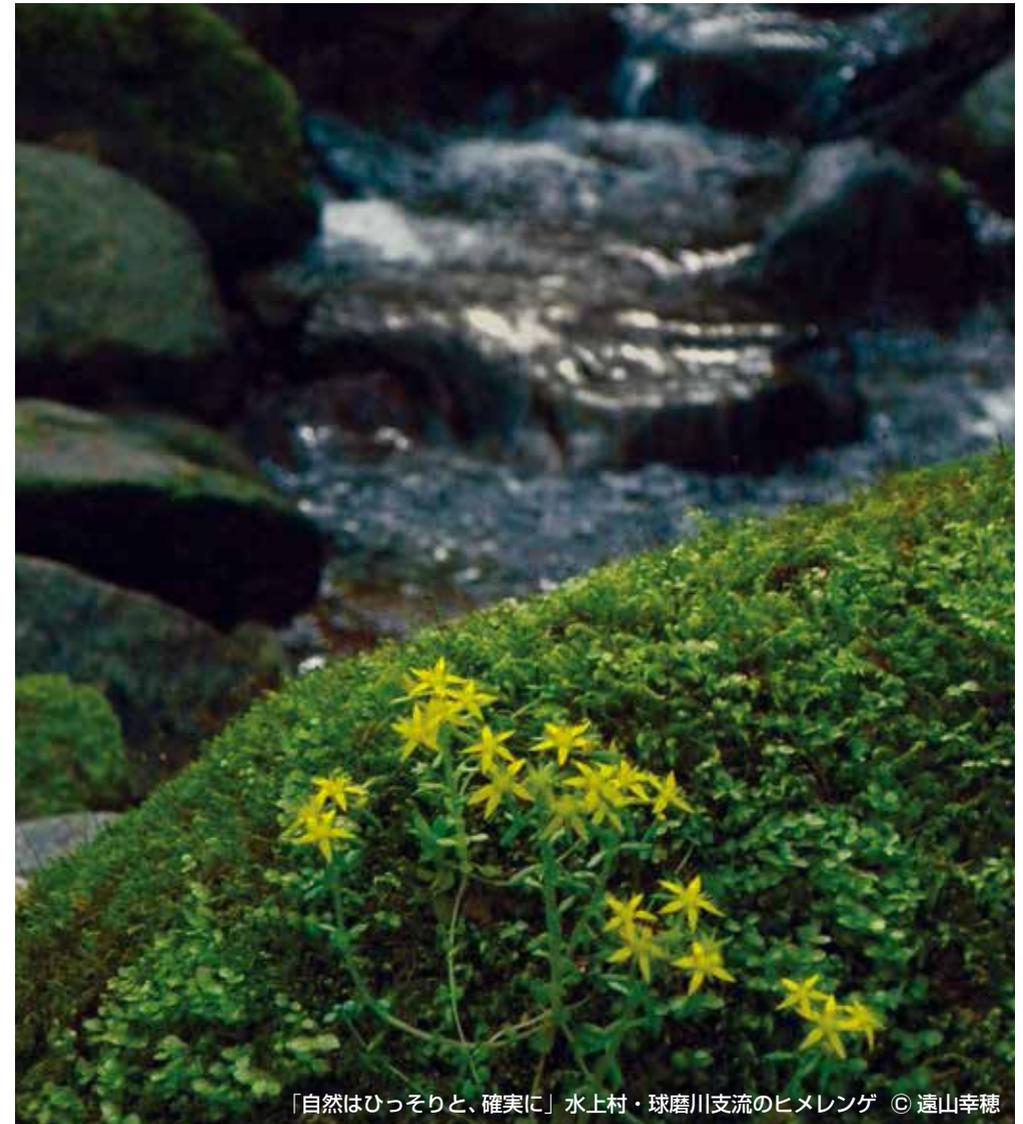


流域の人々と歩む月刊誌

# くまがわ春秋

2020  
**5**  
第50号

## 澤宮優を読む



「自然はひっそりと、確実に」 水上村・球磨川支流のヒメレンゲ © 遠山幸穂

火の国、水の国、  
焼酎の国。

球磨焼酎

球磨焼酎  
**緋月**



球磨川三ツツメ  
宇梶剛士

世界的な品評会で  
金賞を受賞いたしました。  
Los Angeles  
Wine & Spirits  
Competition 2019

**緋月酒造株式会社**  
http://www.sengetsu.co.jp/  
〒988-0082 熊本県人吉市新町1番地

飲酒は20歳を過ぎから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

月刊 くまがわ春秋 第50号 2020年5月9日発行  
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社  
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759  
http://www.hiroyoshi.co.jp/ info@hiroyoshi.co.jp

定価 **550円** 本体 **500円**

雑誌 81779-05-0



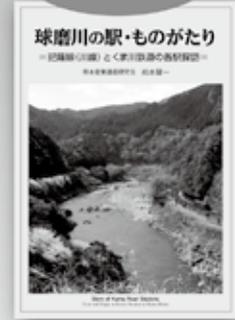
4910817790505  
00500

# 球磨川の駅・ものがたり

＝肥薩線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

絶賛発売中



「くまがわ春秋」に  
連載された  
31駅が二冊に

## 懐かしい 球磨川の駅を たどる

■A5判 212頁オールカラー  
■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、  
TSUTAYA 八代松江店、道の駅さかもと、  
くま川鉄道「くまたび」、発行元の人吉中央出版社、著者宛にどうぞ。

球磨川の駅・各駅数値表
① 村所駅
② 湯前駅
③ 新藤羽駅
④ 多良木駅
⑤ 東免田駅
⑥ 公立病院前駅
⑦ 多良木駅
⑧ 東免田駅
⑨ あさぎり駅
⑩ おかどめ幸福駅
⑪ 木上駅
⑫ 一武駅
⑬ 肥後西村駅
⑭ 川村駅
⑮ 相良湯前成寺駅
⑯ 人吉温泉駅
⑰ くま川鉄道
⑱ 八代本駅
⑲ 八代本駅
⑳ 八代本駅
㉑ 八代本駅
㉒ 八代本駅
㉓ 八代本駅
㉔ 八代本駅
㉕ 八代本駅
㉖ 八代本駅
㉗ 八代本駅
㉘ 八代本駅
㉙ 八代本駅
㉚ 八代本駅
㉛ 八代本駅
㉜ 八代本駅
㉝ 八代本駅
㉞ 八代本駅
㉟ 八代本駅
㊱ 八代本駅
㊲ 八代本駅
㊳ 八代本駅
㊴ 八代本駅
㊵ 八代本駅
㊶ 八代本駅
㊷ 八代本駅
㊸ 八代本駅
㊹ 八代本駅
㊺ 八代本駅
㊻ 八代本駅
㊼ 八代本駅
㊽ 八代本駅
㊾ 八代本駅
㊿ 八代本駅

注文・発行元：人吉中央出版社 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
☎0966-23-3759 / FAX0966-23-3759 <http://www.hitoyoshi.co.jp> [info@hitoyoshi.co.jp](mailto:info@hitoyoshi.co.jp)  
著者連絡・注文先：熊本県人吉市九日町115 松本歯科医院 (〒868-0004) Fax 0966-25-1360

### 5月号(第50号) 目次

- 「さかもと寄り道BOOK」 上村美鈴…3
- 新型コロナウイルス
- アマビエさま 桑原史佳…8
- コロナ鍋 久馬 凌…11
- 新型コロナウイルス感染症② 岐部明廣…48
- ・地方大学の現場の話① 川人環…51
- 柳人があじわう漱石俳句⑤⑥ いわさき楊子…7
- 「中世の鰐口」 大平和明…14
- くまがわの神さん仏さん④⑤ 宮原信晃…17
- 「山頭火出家の道」を巡る① 那須智治…30
- 記憶の落ち穂④⑤ 坂本福治…37
- 建築みである記④⑤ 「緒方家と左座家」 森山 学…38
- おととわつとあすび④⑤ 松舟博満…43
- 一枚の古写真から② 益田啓三…44

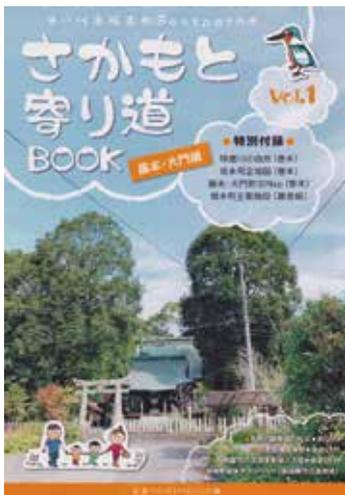
## 澤宮優の本を読む

- 『考古学エッセイ』の唄が聞こえる』 木崎康弘…20
- 『戦火に散った巨人軍最強の捕手』 橋本徳一郎…24
- 『イップス』 興野康也…27

- 「あがつ段」④⑦ 上杉芳野…46
- 鶴鶴短歌会 四月詠草…53
- 新宮家略系図 溝下昌美…54
- 住みたい田舎ランキング⑤ 岐部明廣…56
- お休みどころ通信⑮ 興野康也…59
- 漢和字典は面白い③③ 鶴上寛治…61
- 倉敷便り④④ 原田正史…62
- いもご短歌会…64
- 「季語で一句」⑥ 永田満徳…65
- 愚感随想② 富永和信…66
- 小説・相良清兵衛②⑨ 山口啓二…68
- ひろしの…げっかん・ぎびょう…73
- 外来語から学ぶ英単語⑤⑤ 藤原 宏…73
- 字図で見る球磨の地名③⑧ 上村重次…74
- 73
- くまがわ学習塾③⑤…77
- 前号「くまがわ学習塾③④の答え」…77
- 今月の一言「文読む月日」…巻末
- 表紙写真説明…巻末



# 皆さん、坂本に来なっせ!



Footpath「さかもと寄り道BOOK Vol.1 藤本・大門編」

自然観察指導員で、野山や河川の研究に  
関してはプロ中のプロ  
である。この日、  
手づくりした坂本町  
の詳細な地図を、私  
の分までコピーして  
持参してくれた。

また集落に保管され封印された  
ままの文書や、古老たちの口承に  
は、重要な「町の宝」が隠されて  
いることがある。口承を重ね併せ  
ると、おやおや、記録のないこぼ  
れた箇所があつて思わぬ拾い物を

「この地図だと、ここにあるはず  
なんだけど」「そこに、何ば書いて  
ある?」「しようござん、この崩  
れた字、読める?」「晴れた日に  
出直そうか」「あ、ヤマセミだ!」

所で、忙しなくしゃべり、撮影し、  
せつせと記録を取り、集落の御堂、  
祠、橋、小径などを探しながら車  
で走り廻っている。私の下手な運  
転は、狭い山道の通行ではかなり  
難儀するが、助手席のしようござ  
んはのんびり笑っている。彼女は

## 「さかもと寄り道BOOK 藤本・大門編」を刊行して

編集者 上村美鈴

## 巻頭言

## 梅雨

例年、5月末から6月初旬に梅雨に入り、7月半ばに梅雨明けする。大地を潤す大切な梅雨だが、水害・土砂災害が発生しやすい時期でもある。そうした災害を食い止めるため、事態に見合ったハザードマップを製作し避難所を確保する作業が課題になり、流域の各自自治体はすでにその作業を始めているだろう。住民に対する周知期間を考えると、時間の余裕はさほど残っていない。半月後には梅雨入りするかもしれないのだ。梅雨入りしてから対応を考えるようでは行政の名が泣く。問題解決のために先に動くのが行政の行政たる仕事である。

2月初旬にはマスク不足が深刻であつたのに、いまだにマスク不足を解消できずにいるから、政府配布のマスクは「アベノマスク」と揶揄されるのだ。ウイルス感染の第2波はピークをすぎたというけど、政府のマスクはいまだに手元に届いていない。梅雨時の災害に対する準備が「アベノマスク」であつては困る。昨年までは早めの避難をよびかけるタイム・ラインの整備を課題にしていた。その課題はコロナウイルス感染防止の密閉・密集・密接の3密論と整合させるのか、整合させるためにはどういう工夫が要るのかを行政は考え、それを住民に周知しなければならぬ。梅雨時にコロナウイルスが「終息」しているとの保証はどこにもない。「収束」の傾向はあるが「終息」までは長期戦になるとというのが政府の立場である。

強固な庁舎を建設し、そこを災害時の拠点にするとの意見があり、そうした理解のもとに新しい庁舎が建設されつつある。その拠点は三密の場所にならないのか。災害対策の拠点で感染者が発生したら、どう対応するのか。新型ウイルスの感染問題は想定外の例外的現象であると弁明するのは誰にもできる。「迅速な」・「最大限の」といった形容詞には意味はない。梅雨時の対応はロドスでみつけたというのなら、ここがロドスだ、飛んでみる、と寓話作家イソップであれば言うであらう。

(春秋)

私たちは熊本県や八代市の文化財情報や古史、坂本村史の他、先人たちが遺したいくつかの文献を頼りに、坂本町の埋もれた文化遺産や名所を探している。古史や村史にあつても、消失したものがあれば訂正する。記録されている数字は、できる範囲で計測し直してみる。そして朽ち果てた建造物や祠、物の欠片、石垣、階段道などの由緒や物語などを発掘し、文化的遺産や新名所になるような「町の宝」を探しているのだ。

する。信憑性があり、もしや敢えて遺されなかったのだろうか。歴史の謎解きを試みる。歴史を深く辿ると、面白い事象が垣間見える。このまま次世代に引継がれていくのだろうか、これでもいいのかと思案するもの楽しい。

昨年、私たちをワクワクさせてくれる出来事があった。坂本町で恐竜の骨が発見されたのだ。早速私たちは探しに出かけたし、これに関連づけて、幼い頃、兄が友人たちと化石を拾って遊んだという噂を聞き、直接八代市在住の友人からコメントをもらった。

朝早く出かける日は弁当を持参し、取材の合間に休憩を兼ねて坂本町油谷のワイワイパークに行く。しようこさんの本業は、尊敬する漢方薬の先生だ。お茶目な人で、自宅の庭

の草を料理してきて、「この食材がわかったらすごい。試食ね」と、私に食べさせる。私には判るはずもないのだが、この日の草の試食弁当は、可愛い容器に盛られたピリリと辛い美味なサラダだった。聞けば藪からしのマヨネーズ和えだという。

私は坂本町中谷出身で、熊本地震が起きたひと月前の二〇一六年三月、五十数年ぶりに帰郷して八代市民になった。地震後、東京での写真展に出品する八代市周辺の復興再生の写真を撮っていたが、子どもの頃、離れた坂本の土地勘はほとんどなく、仕事をする上で地理を知らないことの意味を思い知らされた。また企画から関わった「さかもと国際児童画展」の会場案内のチラシ作製でも困った。近くに住む従妹に聞いても、観光地でもない坂本の案内地図など見

たことがないという。このことが、私を一気に坂本町のガイドブック作りに向かわせたのだった。

そして昨年、ずっと以前から球磨川流域のマップ作りを進めていたしようこさんと「企画YORIMICHI I」を立ち上げ、八代市坂本支所の「市民の豊かな町づくり助成金」募集に応募して、今春「さかもと寄り道BOOK」を刊行した。刊行第一号は、最大集落の藤本・大門地区を選び、写真、文、地図を前述のしようこさんこと、つる祥子さん、写真、文、編集は私、イラストを、八代市広報誌「きらら」の編集ボランティアで知り合った歯科衛生士の山本真弓さんが担当した。

坂本町は、旧坂本村時代の一九六〇年代には八つの小学校が存在し、総人口は約一万八千人（現在

約三千四百人）。いちばんのマンモス校藤本小学校には約八百人の児童がいた。この地区には県指定の天然記念物の森がある藤本五所神社や、指定文化財の鰐口がある大門薬師堂と

大門観音堂など、球磨川流域でも屈指の文化遺産がある。全16ページに地域の防災情報や沖繩の疎開児童の話、四季の行事、球磨川の自然、坂本町全図なども満載して、かなり気

合いの入った構成になった。地域振興会、市政協力員、集落の代表の方々に協力をお願いし、コメントをいただいたが、住民の協力なしでは、この企画は成り立たなかったと思う。

刊行後、NHK TV、FMやつしる、熊本日日新聞で紹介されたこともあり、多くの方々から問い合わせがあった。予算の都合で刷り部数は千五百部、八代市内全公共施設で無料配布のはずが、新型コロナウィルスの騒ぎで市立図書館などが閉館し、結局市役所関係だけにどどまった。

「立派な本ができたね」とお褒めの言葉をいただき、「ありがとうございます」。「製紙工場閉鎖は1955年じゃなか、1988年たい！」と記事のミスを指摘されて、「すみません。直します」と応えながら、面映さと申し訳なきで胸がいっぱいの毎日



# 柳人があじわう漱石俳句

— ⑤ — (最終回)

いわさき楊子



なんとといっても川柳人の筆者としては瓢箪の句が気になる。漱石全集十七巻の中に年月がわかった句の最後に載っている。晩年はおとなしい句が多い漱石俳句だが、このおとぼけ感ほユーモアに富んだ若いころの漱石俳句を思い出させる。  
漱石は家族や弟子に見守られながら住まいである漱石山房にてみまかった。満49歳の12月9日だった。

瓢箪は鳴るか鳴らぬか秋の風

49歳

晩年は画をたしなみ、描いた画に自句をそえた。請われてかくこともあり、季節に合った画や句をたたためた。このことから後年には俳句は楽しみに徹していたことがわかる。

秋となれば竹もかくなり俳諧師  
いたづらに書きたるものを梅とこそ

49歳

## 最期

藤本出身の方たちからの御礼の電話や手紙が多い。私たちの自腹分の足しにと、切手を送ってくださった方もある

増刷できるように費用を捻出したいと思うが、できるかどうかは不明だ。企画YORIMICHIの目的は、「心地よい町づくり」のための活動である。町の情報を発信し、移住者や観光客、関係人口を増やして産業や店舗を呼び込み、町を元気にする。そして美しい自然を生かした自然観察教育を通して、子ども達の豊かな未来にも貢献したい。今、私たちは来春の刊行を目指して「坂本・鮎尾編」の取材を開始しWEB発信でのイベント企画や空き家情報の発信も考慮中である。  
そして私は、いつか坂本町でフットパスを楽しみ、ゆったりとした日々を暮らしたいと思う。都会に行った私の故郷の同級生たちにも、ぜひ故郷に帰って来てほしいと願っている。  
【うえむら・みすず／八代市】



夏目漱石の墓

静かだったのはここまでで、すぐに門弟の森田草平の発案で石膏のデスマスクがとられた。翌日は東京帝国大学医学部に解剖された。脳は現在も東京大学医学部に保管されている。  
戒名は文献院古道漱石居士。墓所は東京都の雑司ヶ谷霊園。筆者は昨年11月に墓参した。

この紙幅は漱石俳句を川柳人の視点から楽しみあじわうまたとない場だった。これをもって閉じることとする。感謝にたえない。

押

終活へまず縦のものを横にする  
一筆書きの丸の終わりが閉じられぬ

【いわさき・ようこ／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】



であった。  
坂本町には七十以上の集落がある。続刊ではページ数を増やし、集落の成り立ちや球磨川に流れ込む支流沿いで括るなど検討中だ。全集落の掲載が終了するには、三巻以上は必要だろうし、新刊に併せて既刊分も

### 「さかもと寄り道 BOOK Vol.1 藤本・大門編～八代市坂本町 Footpath」概要

2020年4月1日発行／A5判・16ページ・オールカラー 八代市内公共施設などで限定配布中。

坂本駅を起点とした藤本・大門集落、球磨川水運の中継地として栄えた地域の特集。約1200年前に創建された藤本五所神社、戦国時代に相良氏が遺した「熊本県指定重要文化財・大門薬師堂と同観音堂の鯛口」などの歴史的遺産、SL列車と季節撮影スポット、散歩コース、祭りや伝統食、地層群の大褶曲、遺構など紹介。写真と文、イラスト、簡単な英語表記。巻末に「球磨川の自然」「坂本町全地図」を掲載。瀬の名称、岩の俗称、鮎漁、川遊びの拠点、主要施設、緊急連絡先と地域の指定避難先を収録。

# アマビエさま

福島保育園 桑原史佳

むかしむかし、肥後の国に不思議な神様がおりました。ある夜、肥後の海の中に、キラキラと光る姿で現れました。

次の夜も、また次の夜も現れました。

そして村人たちに

「私は海の中に住むアマビエというものです。

もし、はやりの病がでたら、私の姿を写して人に見せなさい」

と言い残して海に消えました。

月日が過ぎて、令和2年。

海に向こうの大きな国から、はやりの病のうわさが聞こえ始めました。

その病は誰も知らない、薬もない、恐ろしいもの。村人たちは、テレビや新聞で、このニュースを知りましたが、

遠い海のお話だと思っていました。

ある日、大きな外国の船が日本の港に着きました。

その船は、いくつかの港に寄りました。

そのたびに、人々は船から下りて、お店に行ったり、観光をしたり。

「熱がある、息が苦しい」と船の中の人たちがいい始めました。

船の中の人たちがどんどん病にかかり始めました。

病は、海に向こうの国の不治の病でした。

この時期、海に向こうの大きな国の人たちは、旧正月

ということ、

日本に遊びにでかけて来たのです。

日本だけではなく、世界中に出かけていきました。

自分のはやりの病にかかっていることを知らずに。

あつという間に日本のいろんなところで、病がはやり始めました。

同じように、世界の国々でもはやりはじめました。

この病には「コロナウイルス」という名前が付けられました。



太陽の外側のギラギラしたところをコロナと呼びます。コロナウイルスは、表面にたくさんのでっぱりが見られ、その姿が太陽のギラギラに似ているため、コロナウイルスと呼ばれるようになりました。

そして、コロナウイルスは、とうとう肥後にもやってきました。

ひとり、ふたりとどんどん増えていくのをニュースや新聞で知るうちに、

肥後の村人たちは、これはただ事ではないと思い始めました。

20人、30人と増えていきます。

人々が集まらないようにお店やレストランを閉め始めました。

子どもたちを守るために学校もお休みになりました。

大人も仕事に行けなくなりました。

村人たちは終わりのないコロナウイルスに、

大きな不安と恐怖を感じるようになりました。

そんな中で、ある村人が、思い出したのです。

海の中に住む「アマビエさま」を。  
「はやりの病がでたら、私の姿を写して人に見せなさい」と言い残した言葉を思い出したのです。  
その姿は、長い髪にひし形の目、くちばしのような尖った口、全身ウロコで覆われた、3本足の半魚人。

今がその時なのです。  
人々は「アマビエさま」を描き始めました。  
どうか、大切な人が、はやりの病にかかりませんように。治りますように。

世界中から、この病が消えてなくなりますようにと願いを込めて、  
子どもも大人も、見たこともない「アマビエさま」を描くようになりました

「アマビエさま、どうか世界中にあたたかい笑顔を、笑い声を取り戻してください、と願いを込めて、描くようになりました。」

【くわはら・ふみか／球磨郡錦町】



福島保育園の園児たちが描いたアマビエさまの絵



# コロナ鍋。

久馬 凌

「コロナ鍋」。いま、この言葉が話題になっている。「鍋」は、そもそも、どのように読むのか、どういう意味か、分からないというのである。

世論調査によると、「読み方・意

味を知らなくても生きていける」とする楽観的グループがいまのところ全体の約4割を占めている模様だが、どうかして「言葉の壁」を乗り越えたいとする声が一気に強まっ

ており、近いうちに、多数派になるとみられている。恥の文化が根強いなか、他人になにも聞かず、自力で壁を乗り越えようとする動きに「けなげである」とする追い風も吹いているようである。

どういうアプローチを辿ったかは関係者も不明としつつも、同時多発的に、「コロナ「か」と読むことは確認されたようで、大きな前進であっ

たどみられている。さらに見た目から、「禍」に似ているときされる「過」を採用する傾向も生じている。「コロナ禍」でなく「コロナ過」という

のである。心理学の専門家によれば、コロナ問題が過ぎてしまうことを願う気持ちも反映しているのではないかと、あるいは、コロナ問題が過激になったことへの不安感の表出ではないかとのこと。

他方、「か」と読むことを忘れまいと必死になりすぎて、「コロナ可」、「コロナ化」、「コロナ課」、「コロナ嘉」、「コロナ加」と表記する例も散見される。

アマエビ（甘えび）鍋

こうした傾向に、国語学者からは、「過ぎたるは及ばざるが如し」との批判が寄せられているのは当然であろう。それに対して、無関心派よりもマシとする擁護論もないわけでは

ない。

その他、「コロナ渦（うず）」、「コロナ渦（かたつむり）」、「コロナ渦（るつぽ）」、「コロナ鍋（なべ）」といった類似系漢字を発見してくる動きもある。漢和辞典を懸命に眺めた辞典のひき方をもう少し早く覚えるべきであった。

この混沌状態のなかで「アマエビ（甘えび）」人氣が広まった。「アマエビ」を「アマエビ」と読んでしまう誤読派が発生したのである。

カタカナということもあって、無関心派をおさえて誤読派が多数派を形成している。登場時期が桜の時期と重なったこともあって、「甘エビ」より「桜エビ」が美味しいという異説も登場するなど「コロナ禍」



から遠く離れた地点での会話がなされているようである。外食産業が喜ぶような会話であるが、非常事態宣言下である。「桜エビは美味しい」、「甘エビも美味しい」といっている場合か、少しは状況をわきまえろ、言語道断であるとすする批判は当然でてこよう。これに対して、そのよう

に批判してみても、彼らはそもそも「言語道断」の意味が分からないのではないかと、批判者の批判は批判になっていないとして、おだやかな対応を求める向きもある。所謂「大人派」である。

もちろん真実追求派もいる。この正統グループでは、「禍」と「災」

の相違を話題にしているらしい。「禍を転じて福と為す」は彼ら真実追求派だろくと期待されている。

あやかろうと思いついて「アマエビ（甘えび）鍋」をつくってみた。しかも4人前。具は、甘えび・豚肉・白菜・白ネギ・きのこ・水菜。『アマエビ様、甘えび様、疫病を治めて下さい』と願いながら、頭をブチュッと潰してミソを出すのがミソ。あとで、鍋には、ちゃんぽん麺を入れた。「アマエビ様」と「甘えび様」がちやんぽんになって実に美味しい。翌日は、干し大根・干し筍・人参・牛蒡・あげで炊き込みご飯。甘えび様の頭も入れて炊くのがコツ。冷蔵庫の断舍離もできた。さしおり「アマエビ様甘えび様仏様」といっておこう。



炊き込みご飯

10万円が支給になると聞いたので、アマエビ様に

【きゅうま・すぐる／八代市】

# 「中世の鰐口」が物語ってくれるもの

山江村歴史民俗資料館館長 大平和明

山江村歴史民俗資料館では、令和元年度の企画展で「球磨人吉の中世鰐口展」を開催しました。球磨人吉のお堂等に現存している「中世鰐口」25口(個)のうち23口をお借りして展示しました(あとの2口は写真展



合戦峰の鰐口

示)。これだけ多くの鰐口がそろったのは初めてのことでした。これらの中世鰐口は、500年ほど前に造られて21世紀まで伝えられ、いまの私たちにいろんなことを物語ってくれる貴重な歴史史料です。今年3月には企画展のまよめの意味合いから、小冊子にして記録にとどめることができました。

「中世の鰐口」とは、室町時代に造られたものです。その後の江戸時代のものとは形状等で区別することもできますが、「銘文」が刻まれていて年代が特定できるものが多く、後世の私たちにとってはとても有り難い先人からの贈り物になっています。

山江村の瑞光寺跡阿弥陀堂の鰐口には「奉寄進清源山瑞光寺阿弥陀如来／願主 高橋藤嶋鬼塚／于時天文十二年癸卯八月十五日／敬白」とタガネで38文字が陰刻されています。「清源山瑞光寺の阿弥陀如来」に「高橋藤嶋、鬼塚」さんが、「天文十二年八月十五日」に寄進したと記録されているのです。天文十二年とは1543年で、種子島に鉄砲が伝来した年、まさに戦国時代の幕が開かれた頃です。

球磨人吉の中世鰐口の特徴は、他所からの移動が多いということです。「寄進先」と現在の場所が異なっているのがあるのです。前述した「清源山瑞光寺」の鰐口は移動していない珍しいものですね。球磨人吉ではいちばん古い「城泉寺(明導寺) 阿弥陀堂」の鰐口は、「肥後州宇土懸八幡宮」と刻まれています。寄進されたのは「天授七年」(1381年)、その後、いつの頃かわかりませんが宇土から湯前に移されているのです。南北朝から戦国時代にかけて相良氏の軍勢はしばしば宇土周辺へ進出しています。そのときの戦利品として持ち込まれたものと考えられるのです。

銘文から、はつきりとわかるだけでも、  
・「豊後国三・」(大分県) ↓ 「八日薬師堂」(多良木町)



城泉寺の鰐口



東林寺の古い参道の入り口。石段の奥に赤い地蔵が見える

# くまがわの神さん仏さん ④5 今、東林寺の古い参道が熱い — 仏教の華やかさが見える場所 —

宮原信晃

「人吉のお城から南へ約2キロ、田町の急坂から左に登って途中から右へ入ると山門に着く。そこから百

mほど進むと駐車場である。本堂の前にでんと、与謝野晶子の歌碑が座っていた」と、昨年5月号に「東

林寺」を紹介した記事がこれ。今回はこの道とは違う、田町から直接登る「古い参道」のお話をしようと思う。あの有名な寿福酒造場の前を通って真つ

すぐ進むと、こんもり盛り上がった丘と石段が見え、その上にお地藏さんがお座りである。このお地藏さんは江戸時代に作衛門という石工が造った左ひざを立てた人物大の大きなお地藏さん。  
お顔が割れているのは江戸の終わりの頃にあつた寅助火事（鍛冶屋町の寅助という鍛冶職人が料理をしていて火がこぼれ、大火事となり球磨川を飛び越えてお城も田町も焼けってしまった大火事）で、お顔が割れてしまったそう。  
その後ろには田町の江戸時代からの商人のお墓があり寿福酒造家の先祖のお墓もある。このお墓は養野町の石山光次郎が刻んだ当時（大正10年）は最先端の開き扉のお墓。これを習わんと大勢の石工の職人さ



瑞光寺の鰐口



- ・「高千尾庄川曲村観音寺」（宮崎県高千穂町）↓「葛八重地藏堂」（五木村）
- ・「大隅州加治木町地藏堂」（始良市加治木）↓「霧島神社境内仏堂」（水上村）、
- ・「肥州天草郡上津浦庄妙楽寺」（天草市有明町）↓「観

音寺観音堂」（人吉市）などの18口の鰐口が他所から、人吉盆地各所への移入鰐口なのです。

元来あつたはずの寄進先も「阿久根院」（阿久根市）、「南小河」（宇城市小川町）などと、中九州から南九州までの地域であることが読み取れます。そして、その場所、何故かしら相良氏が戦国時代に出陣した処と重なるのです。

中世鰐口は九州全体で約80口、県下には40数口が現存するといわれています。その中で球磨人吉に25口とい

うのは特筆すべきことです。球磨人吉のお堂を訪ねられた際には、ぜひ、「ガラン、ガラン」と打ち鳴らされて、「中世鰐口の音」をお楽しみください。

【おおひら・かずあき／山江村】



あざやかな色が残る東林寺岸壁の羅漢像(1680年～)



益田啓三さんが採った羅漢像の拓本

背筋がゾクゾクして来た。もう帰ろうと、この場所の真下にある中尾水道さん宅に立ち寄った。「昔、子供のころからそのカーブミラーのある場所の真上に登っていたら岩になんか刻んであったですよ」と、中尾社長さんのお話を聞いた。「益田啓三さんたちが調査されて

いる、もっと南側の岩にですか？」と聞いてみた。「はい、もっと上に、今、網が張つてある岩にあったですよ」と。これは大変だ！と早速、益田啓三さんに報告。「え〜」と驚く、益田さん。翌日は、益田さんと竹田さんが

再度調査に行つて、竹田さんがあの危ない網が張つてある崖によじ登つて調査を開始した〜！で、これまでに解らなかつた岩に刻まれた仏像が発見された！かは、来月の心となりました。【みやはら・のぶあき／宮原はり灸院院長】



東林寺岸壁画の案内板を読むま、さん



相良藩のマスクをする益田さん

んたちが葦野へ、というお話は別の機会に。さて、その奥に進むと「青面金剛」様がすつくとお立ち。庚申信仰の仏様でもあり江戸の昔からこの周囲の方々の寿命や運命もお見守りされた仏様。さて、少し進むと、居られました。羅漢様（お釈迦様のお弟子様）や観音菩薩様が岩に刻んである。何と延宝8年（1680年）にこの参道の上にある東林寺が建てられた時に刻まれた姿がそ

のまま残っているのだ。しかもである。色も残っているのだ。華やかな仏様のお姿がありありと、今から340年前のお姿だ。「おどま〜知らん〜」と私も、同行者のま、さんも驚いた。最近はこのすこし上の岩盤に刻まれた文字を掘り起こして拓本に採つたりされている益田啓三さんや、お仲間の竹田さん大平さん、久保田先生、市役所の三村さんや手柴さんなどが頻りに訪れている。今や人吉でも最も熱い場所なのである。

# 澤宮優の本を読む②

## 『考古学エレジー』の唄が聞こえる』

八洲開発株式会社 取締役 木崎康弘

考古学を志した若者たちが歌った唄がある。考古学エレジーだ。

街を離れて野に山に／遺跡求めて俺たちは／夕べの星見てしみじみ思う／遠い昔の物語

あの子は良家のお嬢さん／おいらしがない考古学徒／どうせ叶わぬ恋ならば／トレンチ掘ってあきらめよ

雪の山野に日は落ちて／月の光に照らされた／遺跡の白き清けきは／あの子の面をしのばせる

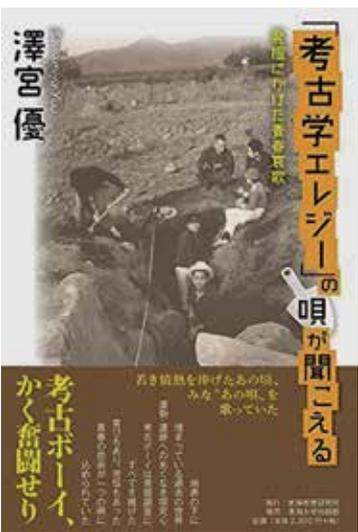
発掘終われば俺たちにな／明日の別れが待っている／せめて今宵は飲み明かそうよ／青い月夜の白むまで

日本考古学界の重鎮、大塚初重も本書に登場する(第八章「戦争と登呂遺跡と師弟の愛と」)。大塚は云う。

僕は本当に好きで、本当に明らかにしたくてやっただけだね。食うためにやるという考古学は、どうなのかなとも思いますね。

島津・柳澤は、「何の為に考古学をやっているのか？」の設問がなされたとき、大きな壁にぶつかつた。趣味では無い。生活費にも事欠き、自分の奥にある何か、の為に苦しんでやっている考古学。

考古学の問題(＝テーマ)は、すぐれて今日的



澤宮優 (著)  
『考古学エレジー』の唄が聞こえる  
—発掘にかけた青春哀歌—  
(東海教育研究所 2016年)

本書は、この唄にまつわる様々なエピソードをたどりつつ、考古学に魅せられし者たちの生き様(有様)を浮き彫りにしていく。考古学者を一度は夢みた作者自らの体験が本書の基底にあつて、全体を眺めるとき、ひとつの戦後考古学史になっている。エレジーに即している。島津義昭から始めている。島津は、知る人ぞ知る、「エレジーの作詞者」。島津を通して柳澤一男も作詞者の一人であつたことが確認されるときにも、考古学に対する眼差しが「エレジー」に昇華されていくプロセスが明らかされる。さらに、二人と戦前の研究者・森本六爾などとの関係を紹介し、それを学史にむすびつけていく(第一章「考古学エレジー生まれる」)。

課題を持つ。

それ故、吾々は絶えず時代と言うものに敏感にならねばならぬ

自問自答していた。大塚と島津・柳澤が同じ目線だったことは、「第九章『考古学エレジー』はなぜ消えたのか」を読み進めれば明らかだ。

さらに、戦前の江藤千萬樹、七田忠志、長田実、乙益重隆、小林行雄へと話題が広がる。高校時代から親しみ、今も書架を飾る藤森栄一著『かもしかみち以後』に登場し、森本や東京考古学会に深く関わっていた人物たち。宇土高校時代の師匠・富樫卯三郎を介して、作者澤宮にまでつながりは広がる。森本に向けた澤宮の眼差しにも考古学エレジーの神髄が宿っている。

大先達たちのエピソードで織りなされた「第二章活躍する考古ボーイ」。そのあと「第三章エレジーはこうして伝播したがつづく。日本各地で次々と歌詞が加わっていったことを評して、澤宮は、「土器が形を変えて各地に伝播してゆく姿によく似ている」と述べている。ちなみに、こんな歌詞もある。

シューリーマンの後を追ひ／華嚴の丘に夢おき／学びの窓は辛くとも／我らが望み誰が知る

歩け歩けオロジスト／縄文弥生土師須恵／歩け歩けオロジスト／アーケオロジスト勇ましく

「第四章 遺跡発掘と学生運動とエレジーと」、「第五章 遺跡保存に立ち上がれ！」は圧巻である。考古学徒たちは、高度成長の風潮の中、ブルドーザーの前に立ちほだかった。60年安保闘争以降、島津・柳澤たちの時代まで続いたことなのだが、今は語られることさえない。読者は、考古学エレジーのエネルギーが何だったのかにきつと気づくはずだし、大塚や島津・柳澤の境地に共感するはずだ。

「第六章 考古学エレジーを生きる」から「第七章 高校考古学部は活躍する」までを貫くのは、懐かしい記憶。夢絶ちがたきほどに魅力溢れる考古学であつたればこそ、若者たちはのめり込み、考古学エレジーに心酔できた。故吉留秀敏も登場するが、彼も、上場遺跡の発

場はあつた。大学の垣根を越えたサークル、発掘者談話会で唄った。

夏に長崎県佐世保市の泉福寺洞穴を発掘し、月2回、故麻生優の自宅で出土遺物を整理していた。発掘合宿所での酒宴兼夕食会や、街に繰り出しての忘年会などでの締めは決まって考古学エレジー。麻生、下川達彌、森淳一郎、白石浩之、副島邦弘、久村貞男、木下修、萩原博文、山口譲治らの大先輩たちと肩を組みながら、滔々と唄い上げた。

その輪に初めて収まつたのは1976年の大学1年生の夏だ。考古学エレジーが産声を上げたのは、その11年前のことになる。

木崎さん。考古学エレジーを作った人が分かりましたよ！ 島津義昭さんだそうです。

大学3年の時、そう話しかけてきたのが國學院大学2年の村井実。聞けば、泉福寺洞穴の後に行った福岡市の発掘現場で知つたという。

掘に参加した考古学ボーイ。人吉市内の書店で購入した藤森の『旧石器の狩人』を片手に明治大学の門を叩いた私も、吉留と同世代だが、章を読み進めるにつれて、オーバーラップされていく。

話題が変わつて恐縮だが、明治大学考古学専攻2年のクラスコンパだったから、1977年春のこと。

考古学エレジーは國學院。明治には考古学音頭があるぞ！

学年担任の故小林三郎はこう私を諭した。そして、「出たぞ出た出た何が出た」と歌い出した。専攻生の愛唱歌だったこれが最初に最後の考古学音頭。悲しいかな、学生運動の余波で大学発掘は中断されたまま。歌う機会があろうはずもない。

「音頭」に代わつて「エレジー」を唄った。同書の156頁で同世代の赤司善彦は「明治大学では考古学エレジーを研究室で歌うことはなかった」と語っている。確かにそうだ、「エレジーは國學院」だ。それでも歌う

大学1年の時に買った『季刊どるめん』第10号に、「西北九州の縄文後期社会―石器よりみた素描―」を書いた人物だ。その後、1981年夏に島津と初対面したが、これもまた私の考古学エレジーだ。

戦後、断続的にも続いてきた考古学ブームだったが、石器ねつ造事件を境に、状況は激変した。1000人の受験者が殺到し、70人程度の合格者という時代があつた明大の考古学だったが、聞けば、今は希望する受験生もめつきり減つたという。実測に格闘する若者も、卒業後に考古学を続ける若者も少なくなったという。法律用語の埋蔵文化財が普通の時代となり、考古学徒もめつきり減つてしまつたということか。

そして、いま、「考古学エレジー」は忘れられようとしている。だからこそ「あとがき 森本六爾を求める旅―」の作者澤宮のメッセージに輝きがあるのだろう。考古学の魅力を噛みしめ、「遠い昔の物語」を伝えたい。そんなことを想わせてくれた良書だ。

【きんぎょ・やすひろ／熊本市】

# 澤宮優の本を読む③

## 『戦火に散った巨人軍最強の捕手——吉原正喜・炎の生涯』

橋本徳一郎

勉強不足で、本誌前号を読むまで、作者の澤宮さんの存在を知らなかった。本書の主役・吉原正喜選手についても予備知識がなかった。そもそも野球のルールについてさえ細かいことは知らない。それ故、評者が本書を書評する適任者であるか自信はないが、そうした情報を知らない素人が評者として適任かもしれないと思う。

今年1月末に痛めた肩の手術を受け、その後8週間の入院生活を送ったのち仕事に復帰したが、その仕事に目処がついた4月上旬に本書を手にした。文体は平明だが、膨大な資料とインタビューをもとに緻密に構成された作品であることが一読して直ぐに分かった。当時の情景や試合風景が目についた。作者の取材力と筆力によるの

だろう。

タイトルのとおり本書は、吉原選手の生きざま、特に野球に対する向き合い方、チームメイトとの関りを描いた作品である。エピソードを交えてあるので読みやすい。エピソードの例を並べればきりがなく、細かく書いてしまうと本を手にする楽しみが失われてしまうだろうから、その紹介はできるだけ控えるが、沢村栄治投手、川上哲治選手の投球を受けた捕手であることは一点を紹介していいだろう。沢村選手が活躍し、川上選手がその才能を開花させつつあった時代に吉原選手はその人生を過ごしたのであった。快足で有名だったが戦地を駆け抜けることはかなわず、昭和19年10月10日に南方戦線で戦

死したのであった。前回の東京オリンピック開会日のちょうど20年前ということになる。享年25歳であった。遺骨・遺品は残っていない。大正8年（1919年）1月2日に熊本県飽託郡本庄村（現在の熊本市中央区本庄）で出生。熊本工業に進学。同校時代に川上哲治選手とバッテリーを組みはじめたのであった。そのため、本書には、川上選手の証言などが随所に登場することは触れているだろう。

プロ野球を取り巻く状況の変化も詳しく解説してあって戦前日本の野球史ともなっている。「プロ野球」が「職

業野球」と揶揄されていたこと、東京六大学野球よりも人気がなかったことなどが語られている。戦争が近づくとつれ、ボールの質がどんどん悪くなり、打つても飛ばなくなつてバッターが不利になる背景や野球用語の変化（「プレイボール」が「はじめ」、「セーフ」が「よし」など）もしっかり描かれている。本書によれば、日本野球連盟は、昭和15年9月13日に理事会を開催し次の新綱領を發表している。

- 一、我方連盟ハ日本精神ニ即スル日本野球ノ確立ヲ期ス
- 一、我方連盟ハ野球ノ神髄タル潤達敢闘共同団結ノ理念ヲ昂揚普及センコトヲ期ス
- 三、我方連盟ハ規範的野球ヲ奉行シ以テ最健全慰楽ノ提供を期ス



澤宮 優（著）  
戦火に散った巨人軍最強の捕手  
吉原正喜・炎の生涯  
（河出文庫 2014年）

作者によれば、これによって、華美な服装の廃止、引き分け試合の廃止、英語の廃止、球団名の日本語化が決まった。戦前野球の質的転換の文章として右綱領は記憶していただろう。

当時、野球人として歩むことは容易ではなかった。野球人も徴兵制の対象であった。徴兵されたときの次の文書は吉原の心情を語るものとして重要である。

「あしかけ五年といふものをこの世界で送り、若い生命を燃え上がらせたにも拘らず、私の胸の底には何の感慨も湧き上がって来ずして、ただ『夢のよう』といふ掴みどころのない言葉が、まるで霧のように広がってゆくのである」

「夢のような」には、「野球をもっとやりたい」という気持ちが入められているように感じる。戦争で野球が続けられなかった人々、野球に限らず、やりたかったことができずに命を失った人々のことを思うと、やりきれな

い思いになる。やんちゃだった熊本工業時代の吉原、監督の叱責をひとりで受け続けた吉原、いくぶん浪費癖のあった吉原、一塁をバックアップするために毎回駆けた吉原、他の選手に較べていいところがあるとすれば足が速いと語った吉原。本書で描かれている吉原選手の姿に接するとき、戦死することなく、その活躍する姿に出会いたくなる。

久しぶりにノンフィクション作品をしつかり読ませていただいた。私の拙い文章で澤宮優さんの作品の魅力が伝わるか不安だが、少しでも読んでみようという興味を持っていただけたら幸甚である。

【はしもと・とくいちろう／八代市】

## 澤宮優の本を読む④

### 『イッパス』

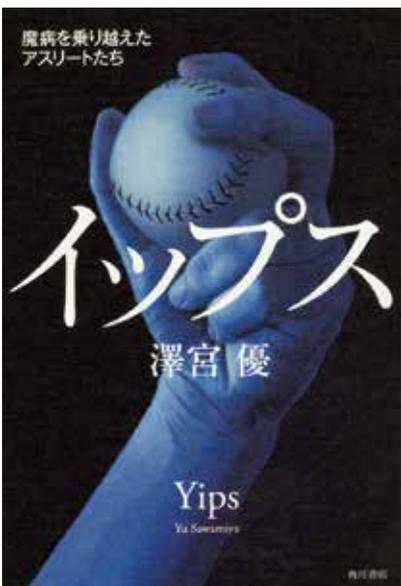
皆さんは「イッパス」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ スポーツ医学などに興味のある方はご存知かもしれません。僕もこの本を読むまでは知りませんでした。ですがプロスポー

ツ選手を中心に、かなり苦しんでいる人がいる深刻な状態を知り、驚きました。

精神科医 興野康也

イッパスとは、体が思うように動かなくなる状態です。いつでも日常生活などに支障をきたす麻痺などとは違い、「他の動作はできるのに特定の動きだけがうまくできなくなることを指します。野球のピッチャーなら暴投してしまつ、内野手なら一塁にうまく投げれない、ゴルフアーならアプローチショットやバッティングがめちゃくちゃになる、テニス選手ならサーブのトスがうまくできないなどです。いずれも高度な技を極めた選手が、いままでなら簡単にできていた動作ができなくなるという奇妙さを持っています。また練習ならできるのに試合になるとできない、といったように状態に変動があり、緊張が強まる場面です。特にできなくなるのが特徴です。

イッパスはプロスポーツ選手のように、①非常に精密な身体



澤宮優（著）『イッパス 魔病を乗り越えたアスリートたち』（KADOKAWA、2018年）

コントロールを求められる、②特定の身体部位に負荷が集中する、③徹底した反復動作を行う、④過度の心理的ストレスがかかる、という状況で発生しやすいそうです。楽器の演奏者や理容師などスポーツ以外の分野でもみられることが知られており、おそろくもつといういろいろな分野の人が経験しているでしょう。少なくともスポーツ選手の間ではよくあることとして知られているようです。

文筆家が紙に向かって書くときにだけ手が動かなくなる「書癡」については僕も知っていました。精神科の教科書にも載っていますし、外来で患者さんを診療したこともあります。病気の位置付けとしては、不随意運動の一種である「ジストニア」とされており、神経内科の専門領域です。イップスは本能的には精神科の問題ではないとこの本では書かれていますが、僕も賛成です（たまたま病などの精神疾患が併発することもあり、この本にもケースが出てきます）。

さらに心理的な要因は大きく関与するものの、基本的には身体メカニズムの要因でイップスが起ることがこの本では強調されています。なのでメンタルトレーニング的な方法も役には立ちませんが、それ以上に「心と体に無理をかけないプレースタイルの確立」が重要なようです。動作や思考を一定にして、あ

対策になります。

プロスポーツ選手の勝負は相手との勝負だけでなく、自分の体調との勝負が大きいでしょう。そして何らかの体調不良に直面したときに、その人の本質が試されとも言えます。元どおりのやり方ではうまくいきません。ではどんなやり方なら自分を活かせるのか？自分の「こうありたい」というイメージにこだわらずに、変化を受け入れていけるか？とても難しいことです。

プロスポーツ選手と次元は違いますが、僕もイップスのようなものを経験しています。あるときからカルテに字を書くときに、右手の親指に力が入らなくなったのです。ところが生活に支障はありませんし、普段は親指に力も入るのです。腱鞘炎かと思いきや、整形外科も2ヶ所受診したのですが、いずれも異常無しでした。また精神科医の仕事というのは話すことと書くことばかりが多いのですが、患者さんに話すときにろれつが回りにくいように感じる場合があります。普段の生活には支障がないので不思議です。これも一種のイップスなのかもしれません。

自分が好きなことや得意なことがうまくできなくなるのは大変につらいことです。生きる支えがもぎ取られるようなものです。プロスポーツ選手でもイップスで辞めていく人も多いそうです。

これこれ動いたり考えたりしないことが大事です。

内容をもとに僕が想像したのは以下のようなことです。プロスポーツ選手は身体的に非常に無理を続けており、肉体的な限界を越える負荷をかけています。なので体の故障（骨折・肉離れ・靭帯断裂など）のリスクを抱えています。一方で精密な身体コントロールを求められ続けることは脳にとっても大きな負担だと思ふのです。そして限界に達したときに「脳の疲労骨折」のような状態になります。それがイップスなのではないか？

膝の靭帯断裂の手術を受けたスポーツ選手は、いくらリハビリをしても、以前と全く同じやり方で動くのは難しいと思います。おそろく何らかの形で膝をかばったり負担を減らす工夫をしながら競技していくでしょう。イップスも同じで、脳の限界を越えたのですから、全て元どおりに競技することは難しくそうです。なので①他の動き方で競技する（野球ではポジションを変える）、②同じような動きをするにしても、他の神経回路を使う（イメージを変える、動作のタイミングを変えるなど）、③休息をあえて取る（練習を減らすなど）、④動作も思考もパターン化し、あえていろいろ考えない、⑤自分の得意なところが勝負し、苦手なところは無理に克服しようと思ふ、などが

す。でもそのときに新たな生きる支えを見つけていく人もいます。非常に大きな試練だと言えますし、あえて言うなら成長のチャンスとも言えるでしょう。

著者はスポーツ選手に取材してたくさん作品を書かれているそうです。僕は『イップス』しか読んでいませんが、著者のライフワークだと感じました。著者の願いはおそろく、子どもにスポーツ教育のなかにイップスが含まれるようになり、イップスになっても相談支援を受けられる体制ができることではないでしょうか？スポーツ選手たちを支えるためにできることとして、著者は大変な苦勞をしてこの本をまとめたのだと思ふました。

実は著者自身もイップスの経験者なのだそうです。イップスになりやすい性格として、求道的・まじめ・気遣いなどがありますが、著者にも当てはまると感じます。十分な能力があるのに、さらに上を目指してやりこみ過ぎるところも当てはまりそうです。なのでこの本は著者からの「イップスに苦しむ皆さん、あきらめないで。苦しみは大きいけれど、道は必ず開けます」というメッセージなのです。自らもだえ苦しみながら書くところに、著者の本質があるでしょう。

【おきの・やすなり／人吉市】

# 「種田山頭火出家の道」を巡る①

人吉・球磨 山頭火の会 那須智治

令和元年12月15日(日)、「人吉・球磨 山頭火の会」13名(一般参加2名)は、山頭火が熊本市坪井にある法恩禅寺で出家してから93年が過ぎた日に、「山頭火出家の道」をたどってバスツアーを行った。マイクロバスは「ホテルサン人吉」から無償提供をしていた。過去2回、「南九州句碑巡り」(二泊)、「山頭火生誕の地『防府市』と終焉の地『松山市』を回る2泊の旅」にマイクロバスを提供していただいている。運転手は今回を含め3回のツアーを、ホテルの専務理事森原勝己さん(会員)が務めてくださった。会員の大半が「出家の道」を訪ねるのは初めてだったので、山頭火の人生の転換期に直面し、山頭火の昔日を想い、感ずるところが多かったように静かに散策した。

山頭火にとって熊本という地は、種田親子が経営していた種田酒造場の二年にわたる酒の腐敗による破産のために、生誕の地「山口県防府市」から家族(妻サキノと長男・健)とともに大正5年(1916)4月に夜逃げして来た第二の故郷であり、苦悶の日々を過ごした地でもある。その為に自暴自棄になり自殺願望の日々を送っていた山頭火が、出家という人生の転換を図った地でもあり、山頭火を語るとき熊本は大事な通過点の場所である。今回のバスツアーは「山頭火の出家の道」をたどるバス旅行である。

種田山頭火「たねだ・さんとうか」は、1882年(明治15年)12月3日生まれ、1940年(昭和15年)

10月11日に松山市で没した。日本の自由律俳句の俳人。山頭火と呼ばれることが多い。山口県防府市の生まれ。「層雲」の萩原井泉水門下。大正14年(1925)に熊本市の曹洞宗報恩禅寺で出家得度して耕畝(こうま)という法名が授けられた。本名・種田正一。

く素人集団で会を運営し、市民講座を開催し研究を重ね早くも8年が過ぎた。その間とても濃厚でユニークな活動を続け、日本中に人吉・球磨 山頭火の会の存在を知らしめることができた。自負している。バスツアーの計画書を作成するにあたり先人が残した多くの本、雑誌、研究資料を参考にした。

## ●実行委員会6名(竹田・立場・宮崎・松崎・河野・那須)でバスツアー行程を作成する

平成24年11

月17日に「人

吉・球磨 山

頭火の会」が

設立された。

顧問の坂本福

治氏、前山光

則氏以外、会

長以下全理事

が山頭火を研

究した者はな

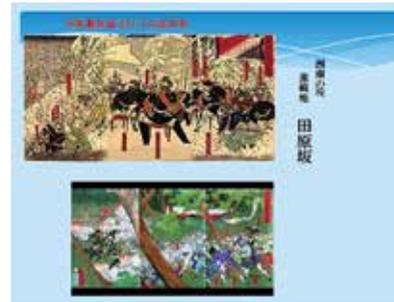
今回、「種田山頭火出家の道」を巡るバスツアーのコースとして、①山頭火が熊本市下通りに移住して居を構え、古本屋を営業した雅楽多書房跡↓②山頭火が酔っ払って市電を止めたと云われている熊本市天神町旧公会堂前↓③山頭火が出家した坪井の曹洞宗報恩禅寺↓④山頭火が出家して1月足らずで坊守になった植木町味取の曹洞宗瑞泉禅寺味取観音堂を順に回る計画を作ったが、交通の利便上、渋滞を避け回遊するついでに近郊の史跡⑤田原坂、⑥熊本城復興現場↓⑦種田家の墓地がある曹洞宗安国禅寺、山頭火の句碑があり、望月義庵のお墓のある⑧曹洞宗大悲禅寺の仏閣を見て巡るコースを作った。



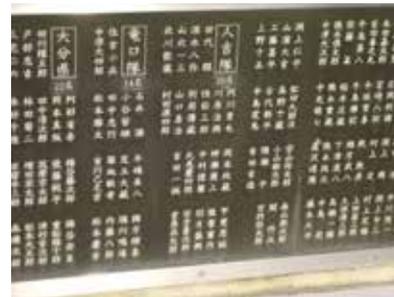
(左)山頭火は明治42年(1909年)サキノと結婚27歳。側の女兒は腹違いの妹。(右上)倒産した種田酒造所(右下)生家跡と記念碑

● 出発

令和元年12月15日、霧深い午前7時半人吉駅の山頭火顕彰碑前を出発↓田原坂記念館↓味取観音堂↓熊本城復興現場見学↓雅楽多跡(車上から) ↓旧公会堂前(車上から) ↓報恩禅寺↓曹洞宗安国禅寺↓大悲禅寺↓帰路に着く↓午後5時30分、人吉駅前帰着の予定で出発した。車中、多くの先人が造った書物の資料から3ヶ月かけて作った行程表と案内書をもとに、私と竹田理事がガイド役になり、これから回るコースの説明と寺院の解説を行った。



西南の役錦絵 田原坂激戦地錦絵



人吉隊戦死者の墓誌

● 史跡田原坂

バスの中で、今回のバスツアーの行程と立ち回る先の重要な点を説明しているとあつという間の9時45分、田原坂に着いた。「田原坂西南戦争資料館」は熊本市北区植木町豊岡にあり、味取観音堂の近くにある。日本では最後の激戦地に



新しくなった田原坂資料館



資料館展示室



弾痕跡のある土蔵。新しい資料館ができるまでは記念館だった(12月15日)

ある資料館は観光客が少なく、身の引き締まる思いの寒さを感じた。天気は快晴。田原坂西南戦争資料館の案内人でもあり、「植木山頭火の会」前・会長の中尾末義さんが迎えてくれた。新しく資料館ができていた。館内展示も整列され、分かりやすい中尾さんの案内で45分間館内を見学。田原坂激戦地跡を眺めながら、次の目的地の味取観音堂④(後述)に中尾さんの先導で移動した。熊本県南にいる私たちにはなかなか訪れる機会がない所であり、もつと時間をかけて見学したかったが、今回はツアーの付録であり、惜しみながら田原坂をあとにした。

● 次に熊本城復興現場⑥に向かう



熊本城は人でいっぱい(12月15日)

熊本城に近づくにつれ車両が多くなってきた。駐車場がいっぱいだった。バスは予約がないと駐車できないと断られた。企画した田舎者の私の調査不足だった。大きなクレーンが2台、天守

閣より高く聳え、資材を運んでいた。ここで昼食の予定だったが変更し、坪井にある報恩禅寺に向かう。

● これから本題の種田山頭火の出家の道をたどって紹介していく

① 雅楽多書房跡

(下通り元大洋アパート、ダイエー跡にあった。現複合商業施設COCOSAの一角に該当する)

大正5年4月、2年間にわたって酒が腐ってしまった種田酒造場は経営が危機に陥り、再建に奔走するも、結局種田家は破産に追い込まれる。父竹治郎は行方不明(その後は消息不明)になり、山頭火は「層雲」友人の兼崎地橙孫(旧制五高在学)を頼って妻子と熊本へ移る



昭和初期の熊本市街図。雅楽多の所在地117という番地が見える(土橋南江「熊本市街地図」)



昭和初期、上通を行くグタ屋敷の五高生たち(絵葉書、昭和5年/匿名者) 古川富章「雅楽多書房と種田不知火」より



報恩禅寺の場所



報恩禅寺山門



山門から本堂を見る



法恩禅寺境内

れている。路面電車は現在廃線になっている。ここに、泥酔し市電を止めた山頭火を報恩禅寺に連行した本当の人物は誰かという議論が複数の山頭火研究者から出ており、大変面白い。会員の坂本福治氏もその一人で、このバスツアーの移動中に説明を受けたいと企画していたら、面白い展開に発展した。泥酔し路面電車を止める事件を起こした山頭火本人が、自分で報恩禅寺の門を開いたか、誰か連行したものがいたのか、それぞれの説が面白い。その詳細は後述したい。今回は連行された山頭火として話を進めてみたい。

③報恩禅寺(千駄佛) 熊本市中央区坪井3丁目8-43 報恩禅寺に連行された山頭火は大正14年2月(42歳)、住職・望月義庵を導師に親友の友枝寥平(県立病院薬剤師・層雲同人)を立会人として得度し「耕畝」と改名した。出家した山頭火(耕畝)を二か月後に見舞った親友伊藤敬治(熊本農業普及員)の回想によると、廊下の一番奥の机の前に座っていたが机には只一冊「無門関」が置いてあった。伊藤敬治は山頭火にすぐ連れ出されて、ある料亭で酒の相手をさせられた。よくしゃべり、よく歌い、二次会、三次会と飲み



雅楽多書房跡。現商業複合施設「ココサ」

つていく。熊本での山頭火の生活は常に空虚感や欠落感が付き纏い、更にこの頃に起こった第二郎の自殺が山頭火をより一層酒に向かわせることになる。古書店「雅楽多書房」は昔の大洋デパートの跡地にあり、その後はダイエー、現在は商業複合施設「ココサ」(COCOSA)となっている建物を車窓から見学。天神町旧公会堂前を車上から見学し坪井にある報恩禅寺に向かった。

②旧公会堂前(天神町・現市民会館前交差点)  
(山頭火が泥酔し、路面電車を止めたところという)



旧熊本市公会堂前



事件現場の地図

ことになる。大正5年5月、熊本市下通町一丁目117(村上吉平方)で古書店「雅楽多書房」を開業。しかし、経営は軌道に乗らず、間もなく額縁店「雅楽多」として再出発。その経営も次第に妻サキノに任せがちにな

1919年(大正8年、37歳) 10月、妻子を熊本に残したまま単身上京。妻サキノとは翌1920年(大正9年) 11月、種田家の負債を債権者が妻サキノの実家に取り立てに行くようになったので、戸籍上離婚している。1923年(大正12年、41歳)、関東大震災に遭い、熊本の元妻のもとへ逃げ帰った。大正13年12月、熊本市内で泥酔し、路面電車を止めたところを顔見知りの熊本日日新聞社の木庭という記者に助けられ、市内の坪井の報恩禅寺(千駄佛)③に連行され望月義庵住職に預けられ寺男となったといわ

# 記憶の落し穂

その ④9

絵と文／坂本福治



## 消した小磯良平の線

最近の新聞で、画家の小磯良平が女優の八千草薫の肖像を描いていたことを知った。八千草薫では、三船敏郎の「宮本武蔵」で共演したのが、私には印象が強い。

私の若き日、東京芸術大学の夏期講習を受けたことがあった。講師は高名な林武、牛島憲之、小磯良平という面前で、普段は画集でしか見られない人たちだった。こちらから指名して見てもらうことはできない。運良く、小磯画伯が私の作品の前に座って、作品の後頭部に訂正の線を引かれた。憧れの画家による線である。ただそれだけでうれしく、そのまま私の手を入れずに持って帰るだけだったが、それでは講師に失礼だろうと考え、皆さん迷った末、訂正の線にそって描き直した。今から六十年も前のことである。

【おかもと・ふくじ／画家、人吉市】

けふも托鉢こもかしこも花さかり  
山頭火



山頭火の句碑



望月義庵和尚



千駄佛



報恩禅寺にて (12月15日)



坪井地名の由来

歩いた。禅寺では真剣に修行していたのでなく、飲み代が無いからジツとしていただけのことである。

これに対して望月義庵和尚は無言で通した。ただ与えたのが「無門関」一冊という経典が意味深長である。案外あつけない世捨てであった。その上、お経を習う期間もおかず、大正14年3月5日には当時の鹿本郡植木町にあった味取観音堂(曾洞宗瑞泉寺)の堂守になって移住している(山頭火アルバム別巻より)。

熊本城公園で復興工事現場を見ながら昼食をとる予定だったが入場できなかったため、藤崎宮の近くにある報恩禅寺に向かう。数度の震災を逃れた名刹である。坪井お茶の間センターの坪井山頭火の会の岡崎信五氏と2名の会員の方が出迎えてくださった。残念ながら本堂と千駄佛は住職不在のために見学ができなかった。岡崎さんの説明を聞きながら、しばらく思い思いに散策して記念撮影を行った。ここでゆっくりと人吉から持参した弁当を広げる。陽だまりの中、それぞれ境内に座り持参した弁当の昼食を取った。(次号⑤に続く)

【なす・ちはる／人吉市】

# 緒方家と左座家があるく

森山 学



写真① 緒方家：南側全景。左にかぶと造り、右に切妻屋根の玄関

八代市泉町にはふたつの落人伝説がある。

ひとつは壇ノ浦合戦後、平清経らが落ち延びてきた（文治五年＝一二八九）というもの。または建長二年（一二五〇）に清経の曾孫らが移り住んだとも。その末裔が五家荘の椎原、久連子、仁田尾、樫木、葉木を支配するようになる。それが緒方家と、緒方家から改名した左座家である。

もうひとつは菅原道真の子、菅宰相と千代丸が落ち延びてきて（延長元年＝九三三）、左座に改名した

というもの。この場合、左座家（仁田尾、樫木）は緒方家（椎原、久連子、葉木）とは異なる伝説をもつわけである。

諸説あれ、ともかく伝説の豊かな含みをそのままに、今回は椎原の緒方家、仁田尾の左座家の民家を訪ねる。緒方家は川辺川に並行する国道四四五号線沿い、左座家は川辺川の支流、小原川に並行する県道五二号線沿いにある。

まずは緒方家（写真①）へ。現在の建物は三〇〇年ほど前に建てられたもので、平成十二年までは五十年間、旅館として使用されていた。しかし老朽化が進み、改造もされていたことから、泉村（現八代市）が取得し復元している。

石垣の上、広く南庭がとられ

ることがわかる。

土間の右手は食違型四間取りである。土間との境には大黒柱が立つ。四つ間取りのうち、手前側がオモテで板張り、囲炉裏が切られている（写真②）。ここは茅葺きの屋根裏が見える。小屋組は二本の部材をお互いに寄りかからせて頂部をつなぎ山形に組むつくり方で、屋根裏に大空間がとれる又首組とよばれるものである（写真③）。

先ほどの切妻の玄関はこのオモテに連絡する。一般にオモテの下屋に式台をつけ玄関とするが、緒方家ではとくにここに社寺風の屋根をかけているわけである。

オモテの裏は四畳の仏間である。オモテと土間、オモテと仏間の境界には差鴨居があるのに対し、オモテ



写真② 緒方家：オモテ。左に土間、中央にナカエ、右に仏間



写真③ 緒方家：オモテから屋根裏を見上げる

れるナカエという部屋であるが、緒方家では一室だけでなく二室はなく二階の床がむき出しで見えているものである。つまり土間の上に二階がある

その南を向いて建物が建つ。屋根は茅葺きで、起りとよばれるかたちでふつくらと膨らんでいる。寄棟ではあるが、西側の妻は屋根が途中で切れて半分ほどしかない。いわゆるかぶと造りである。

南側の正面から見ると、なかほ

どに切妻屋根の玄関がある。社寺の屋根のように若干の反りがあり、その頂点に懸魚がさがっている。格式ある民家であることがわかる。

玄関の左手の大戸は土間への入口である。土間に入ると目の前に部屋がある。泉町の間取りでよくみら



写真⑤ 左座家：西側全景。石垣の上に建つ

さらによく見ると、唐破風の懸魚にあたる兎の毛通しとよばれる部材には梅鉢紋があつて菅原道真との関連を語っている。玄関付近の軒下の透かし欄間も梅鉢紋が主題であ



写真⑥ 左座家：唐破風の玄関。中央上部が兎の毛通し

る。そのほかの欄間には、松竹梅七宝輪違紋、波と千鳥が彫られている。この家には格式が違う三つの入口があり、そのうちのひとつが土間に



写真⑦ 左座家：隠居部屋から中廊下越しにオモチを見る

通じる大戸である。土間に入ると正面がナカエ、右手は食違型四間取りの高床で、まずは広いオモチである。ここにふたつ目の入口、式台がある。オモチの裏には隠居部屋があ



写真④ 緒方家：二階。大きな障子と斜めの天井

さて二階には、屋根裏を利用した隠し部屋がある(写真④)。畳敷きの二室が並び、床と床脇があり棹縁天井が張られていて、二階座敷の扱いである。かぶと造りで屋根が半分であるため、屋根裏でも障子が大きく明るい。また屋根勾配にあわせ

て天井が斜めに張られた箇所では、天井板を矢筈張りとしていて面白い。次は仁田尾の左座家(写真⑤)へ。こちらは二〇〇年ほど前の建物で、やはり泉村が取得、復元している。建物は県道沿いの高い石垣の上にあり、県道側の西を向く。茅葺きの寄棟屋根で、緒方家とは違い下屋がなく大屋根を葺き下ろす。県道から見上げて目を引くのは唐破風の玄関である(写真⑥)。唐破風とは垂木や破風板がカーブを描く屋根のつくり方で、禅宗寺院のほか、天守閣の屋根などにも見られる。ただものではない民家だと一目でわかる。これは座敷に通じ、三つある入口のうち最も格式高い。

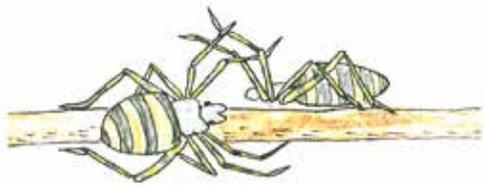
とオモチの上手にある座敷の境界には長押がつき、釘隠しが飾られる。土間に近いオモチや仏間よりも、上手の座敷が格式高いことを示す。

座敷は下座敷(次の間)と上座敷からなる。座敷内にもぐるりと長押が回り、棹縁天井が張られている。その棹は漆塗りである。上座敷の座敷飾りは床の間と床脇。床脇には天袋があつて、かつては違い棚があつたその痕跡が残る。この座敷はまさに家柄にふさわしく書院造であつて、切妻の玄関は正客を迎えるその「車寄」に値すると言えよう。

て天井が斜めに張られた箇所では、天井板を矢筈張りとしていて面白い。

# おっとわっとあすび その④

絵と文／松舟博満



## ヤマコブ合戦

温うひなれば、虫どんが卵から生まれ（生まれ）じゃあて、溝ん土手やらにやヤマコブ（コガネグモ）んオッチョ（雄）てもメツチヨても見分けん付かんと、小

みんなか網ん巢は張つとつたで、二ガ竹ん葉の多かつやら木の枝んたくしやあつとで、巢ごめえ巻き付けつから何匹も捕つて戻つて、ボオフラ柵やら庭ん木に捕つて来た木や竹ごめ乗せとけば、我がどんで好きなの所けえいたあて、小みんなか巢の網ば張つ居つた。

ヤマコブは、生きた虫しきや食わじやつたで、小みんなか虫ば捕まえつから網んなんぎやつて（投げて）ひつかかれば、真ん中きや居つて網ばがぶつ（揺さぶる）て、引つかかった網の糸は切つて真ん中きや持つて行たあて、虫ん汁つば吸つて太うなつ居つた。

そぎやあやつて太うならきやあたヤマコブん誰がとが強かかん戦いじやつた。

自慢のヤマコブば捕つて来た時

んごてえ、木や竹ん巢ごめえ巻き付けつから持ち寄つて、一尺ぐりやん長さん棒ん先に一ちよんヤマコブばはませつから、反対側ん棒の先ん相手んヤマコブばはませつて戦わすつとで、糸ば巻き付けられつから動きやえんめえひなれば負けで、糸ば垂らきやて棒から下がつた時にや、手に唾ば溜めてヤマコブん下ちやもつていたあて戦いおつた。

そんまま糸ば垂らきやて地だん付けば負けんつた。戦いおつて糸ば垂らかしむかさじにや地だんつこけ（落ちる）たあた負けんひなつて、誰つが飼うつたとが一番強かば決め居つた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



写真⑧ 左座家：上座敷。正面に床の間と床脇。右に付書院。左に仏間



写真⑨ 左座家：二階の足元の透かし欄間

る（写真⑦）。二部屋は中廊下で仕切られていて近代的である。隠居部屋に並んで二畳の仏間がある。

オモテの上手に下座敷（次の間）と上座敷があり（写真⑧）、天井は

根太天井の他室に対し、ここだけが棹縁天井である。上座敷には床の間、床脇、付書院が備えられ、床天井は矢筈張りである。座敷の南面、西面には縁側が回る。車寄に

値する唐破風の玄関、三点セットの座敷飾り、縁側とまさに典型的な書院造である。さらに先述の二畳の仏間は床脇横に開かれている。書院造の典型、園城寺光浄院客殿（滋賀県）には、この位置に二畳の書院の間が備えられている。左座家の仏間はまさにこの書院の間に倣つたものである。

二階には畳と板敷きの部屋があつて、菊水の透かし欄間が、実は二階の足元の明り取りとなつている（写真⑨）。隠し部屋っぽくてワクワクする。

安心して建物巡りを楽しめる日が早く来ますように。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

大発見!

# 一枚の古写真から ②

益田啓三

ある旧家に遺されていた古写真を紹介しよう。

## 『第三十六代 相良頼紹 夫人中子』

私は頼紹さまの妻で中子と申します。

公家の徳大寺公純の娘でございます。明治5（1872）年10月に当家へ嫁いでまいりました。



相良中子

相良家には先代の頼基さまへも徳大寺から嫁いでおります。編集の方々は美人だと申しておりますが如何でしょうか、ホホホ。

子どもは女だけで貞子と鴻子と申します。

ふたりとも華族女学校へ行きました。学習院の前身ですわ。

## 『相良貞子』

長女貞子と申します。

私が好きな人は相良頼綱さまでございます。はすかしい…。

頼綱さまは第37代をお継ぎになられました。

それから好きなのは落語と講談、また皇后陛下と食事もしたいですわ。

私が結婚したのは子爵の福岡秀猪さまです。今も子孫は続いておりま



相良鴻子

相良貞子

すのよ。

もしどこかで縁がありましたらよろしく願います。

## 『相良鴻子』

次女の鴻子と言います。

私の好きなものは、鬼ごっこして苦しいときの「砂糖水」

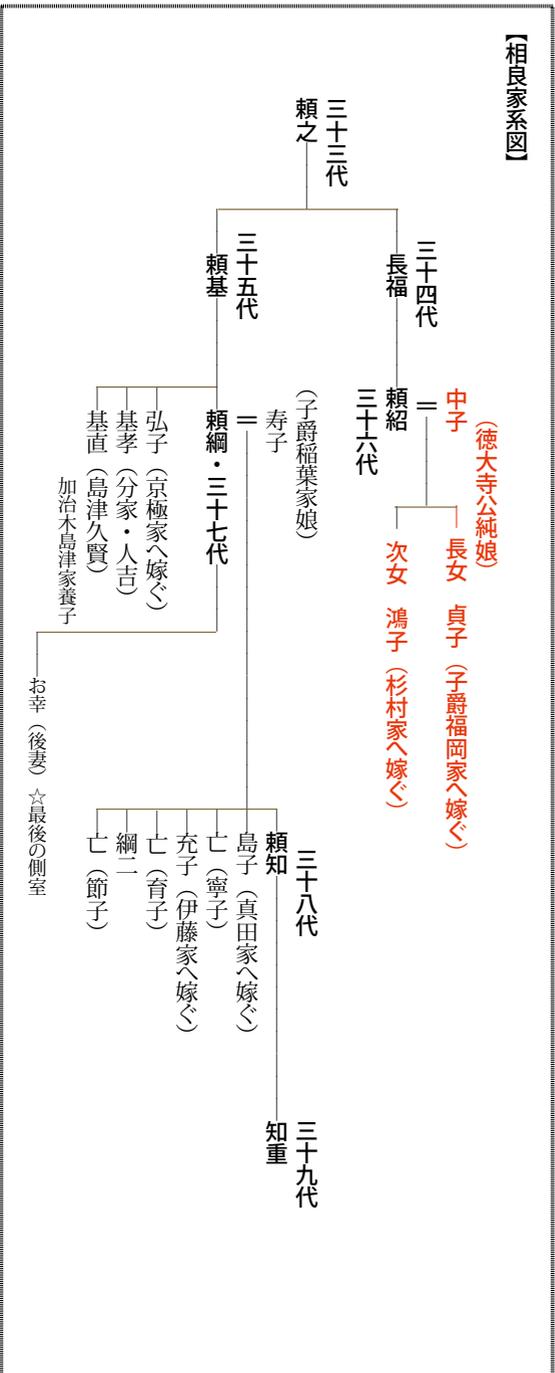
がすき。

それから聞きたいのは弟か妹の声…まだまだ子供でしよ。

私は杉村虎一さまのところに嫁ぎました。子どもは一人、月男と申します。

【ますだ・けいぞう／人吉市】

## 【相良家系図】





上杉芳野の「あがつ段」④7

# 思わぬ出来事

マスクミで知る新型コロナウィルス問題は、日本だけでなく世界中が恐怖に怯える出来事になった。初めは一人二人の感染者が各県ごとに増え始め、死者までもが出た。日本中のイベント中止、外出も人の多いところに行くことが禁止され、学校も休校となり共働きの家は子供だけとなった。福岡にいた息子夫婦は高二になる長男と今度高校に入る長女がいるため「何か手伝いはできないか」と考え出し、しばらく田舎で孫たちの面倒をみよう、ということにした。福岡まで主人が迎えに

行き、孫二人を私たちの家に連れて来た。まず私が最初にしたのは献立表の作成。自分の子供たちを育てていた、あの頃の料理を思い出した。ハンバーグやスパゲティなどを作り、時々田舎料理のまぜ飯やだご汁を作った。すると孫たちがお替りして食べてくれるので嬉しかった。子育て時代から遠のいていた私にとつて久々に作る子供向き料理は昔を思い出し、嬉しさを感じた。

主人は二人の孫に毎日、我が家の道場で剣道を教え、まだまだ負けられんとはばかり、いいところをみていた。犬の散歩に一緒に行ったり、庭の横にある菜園畑の草取りや野菜作りなど、日頃都会ではできないことをした。コロナを乗り越えた時、良い体験として心に残るこどだろうと思う。二人が勉強している時も、主人はイヤホンを付けてテレビを見ながら「お前たちはテレビは見るといいな」と言いながらコタツの上に台を置き、毛布で仕切りをしたり、ある時は傘を広げて置いたりしてテレビを孫たちから見えない様にしていた。私も孫も可笑しくてゲラゲラ笑っ



中学卒業前の優空(右)と、高1終わりの昇永と共に。私たち二人は古稀記念(令和2年3月)

た。これも主人の孫たちに対する愛情表現だと思う。私が料理をする時も手伝ってくれたり、運んだり、片付けたりいろいろ助かった。洗濯物もドサドサと山のように出すので大変であったが、3月3日から10日までの8日間はアツという間に過ぎてしまった。小さい頃から帰郷して来る度に柱の傷で背丈を測っていた。大きくなるにつれ部活や遠征があり、泊まる回数も少なくなった。今回、大きく成長している孫たちの姿に主人も私も感動した。

顔、声、しぐさが息子そっくりで、つい、「大志」と何回か呼び、娘に似ている妹には「夢都美！」と呼んでしまった。毎日の孫との会話、笑顔に癒され、心から嬉しく思った。感染者の皆様の日も早い回復と亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。コロナウィルスが早く消滅し皆が安心して生活になります様に願っています。「孫の昇永、優空、帰って来てくれてありがとう。感謝」。

# 新型コロナウイルス感染症 (2)

人吉市医師会長 岐部明廣

「コロナって怖いね」

「見えないんで、よけい怖いよ」

「岩手県ってすごいね」

「感染者ゼロだもんね。すごいよ」

「ぼく、宮沢賢治がまもっているとおもうんだ」

「へえ」

「世界のアチコチで民族がいみあっているんで、そこにウイルスのつけ込むすきがあるんだと、夢の中で宮沢賢治がそう言っていたよ」

「宮沢賢治ってえらいね」

「えらいよ。みんなが幸せにならないと、個人の幸せはないんだと、宮沢賢治がそう言っていたよ」

「へえ、そうなんだ」

「コロナって、神の怒りだよ。自分勝手に熱帯雨林などの自然や野生動物などの生き物をいじめる人間に対する神

の怒りだよ。きつと、そうだよ。夢の中で宮沢賢治がそう言っていたよ」

「へえ、そうなんだ」

「みんなの意味はひろいんだよ。人間だけでなく生きとし生ける物すべてなんだ。地球も人間だけのものではないんだ。生きとし生ける物すべてのものなんだよ。コロナウイルスだつて馬鹿にしてはいけないんだよ。コロナウイルスだつてコウモリの体のなかで生きる権利があるんだと、宮沢賢治がそう言っていたよ」

――雨にもコロナにもマケズ――

雨ニモマケズ

コロナニモマケズ

コロナニモ夏ノ暑サニモマケヌ

免疫力のある丈夫なカラダヲモチ

欲ハナク

国を信頼して補償補償とわめかす

10万円にも素直に感謝し

決シテ嘖ラズ

後手の安倍首相にも決シテ嘖ラズ

小さなマスクにも素直に感謝し

少ないPCR検査にも決シテ嘖ラズ

イツモシズカニワラツテキル

一日ニ玄米ニ一合ト

味噌ト豆乳ト大豆ト野菜ト魚ト少シ

ノ肉ヲタベ栄養と免疫力をつけ

アラユルコトニ

ジブンノカンジヨウニ人レスニ

あらゆることに感謝し

他人を批判せず決シテ嘖ラズ

自宅で子どもや孫に勉強を教え

ヨクミキキシワカリ

知事の要請も素直にわかり

ソシテ冷静さをいつもワスレズ

トイレットペーパーの買い占めにも

行かず野原ノ松ノ林ノ蔭ノ小サナ

萱ブキノ小屋ニキテ、ストレッツチ

決して不要の外出をせず、しかし

東ニ病氣ノコドモアレバ

マスクを着け防護服をきて

行ツテ看病シテヤリ

西ニ疲レタ母アレバ

マスクを着け手洗いをし

行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニシニサウナアレバ行ツテ

治療薬もワクチンもできるから

コワガラナクテモイイトイヒ

北ニケンカヤソシヨウガアレバ

こんな非常事態宣言時に

ツマラナイカラヤメロトイヒ

ワンチームになろうと諭し

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

志村けんや岡江久美子の悲報を

表1 コロナウイルス死者数 (R2年5月4日現在)

	死者数 人	人口10万 死亡数 人	16日間死亡増加率 倍(4/2→4/18)	16日間死亡増加率 倍(4/18→5/4)
米国	67682	20.7	7.21	1.82
イタリア	28884	47.7	1.72	1.27
英国	28520	42.5	6.20	1.95
スペイン	25264	54.1	2.13	1.26
フランス	24900	38.3	4.63	1.33
ベルギー	7844	68.8	6.25	1.52
ブラジル	7051	3.37	8.90	3.24
日本	555	0.44	2.68	2.92
韓国	250	0.49	1.37	1.08
台湾	6	0.025	1.20	1.00

きいても涙をながし  
サムサノナツハオロオロアルキ  
コロナでも大雨でもケセラセラ  
必ずいつか虹がでると皆を励まし  
ミンナニデクノポートヨバレ  
酒も煙草もやめてパチンコにも  
行かずホメラレモセス  
世間の評判を気にもせず  
冷静に判断し  
クニモサレズ  
あらゆることに感謝し  
素直に自粛をできる人に  
サウイフモノニ  
ワタシハナリタイ

(原作・宮沢賢治、改変・岐部)

PS..表1から自分なりに何かを感じとってください。  
日本の最近の高い死者増加率が少し気になる。  
台湾から初動(水際対策)の大切さが分かる。

# 新型コロナウイルス禍の とある地方大学の現場の話

①

川人環

いつもの4月なら、大学キャンパスはとて華やいでいる。学ぶ意欲に燃える新入生を迎え、在校生らは新入生歓迎のサークル勧誘イベント(新歓祭)などに勤しみつつ、気持ちを新たに新年度の講義に臨むことが多いからだ。しかし、今年度のキャンパスは静まり返っている。

西南日本に位置する私が住む町で新型コロナウイルスに感染した患者が最初に発見されたのは、2月29日。全国では既に215名の感染者が確認され、地方都市での発見も相次いでいた。ただ、この時点で本学は、3月下旬の学位授与式を実施する可能性は半分くらい残されていたらしい。

「らしい」というのは、日々刻々と状況が変わる中、現場まで情報が全く降

りてこなかったためだ。県内での最初の感染者発見から2日後、経路不明でPCR検査陽性の患者が発見された。それから1週間の間に、学位授与式中止、一般入試後期日程の変更、入学式の再考(後に中止)が大学のウェブサイトで発表された。

その頃、在学生と構内ではったり会うことがあった。「僕たちに全然情報が来ないんです。卒業式がないらしい、ってことしかわからなくて」。

申し訳なきを感じる一方で、私も同じ状況に置かれていた。全学の委員会に入っていない教職員は、学生や保護者と同じタイミングで、大学のウェブサイトで情報を得るよりほかなかった。同僚に尋ねても「2週間遅れになりそう」「土曜日も授業するかも」。都度、見通しは二転

三転した。  
「1学期の授業開始が1週間遅れる」と確定情報が届いたのは3月26日。初めての事態とはいえ、日頃実感していた組織内の風通しの悪さを物語っていた。

大学の方針が直前まで定まらな(議論の過程が新学期に業務に当たる構成員に共有されな)かった一方で、学生に対して、「通常通りの学費納入を求め開講する予定だろうから、限られた案件のもとでも、最善の教育を届けねば」と義務感を抱いていた。そんな時にとっても頼りになったのは、同業者による実践報告だった。

文科省高等教育局が、新型コロナウイルス対応に関する学事日程や遠隔授業の活用等に関する具体的な通知を大学等に出したのは、3月24日。だがその前の段階から、とりわけ感染確認数の多い都道府県に立地する大学関係者は、不安や新年度に向けて取るべき対応をSNS等で発信していた。同業者の個人ページを見ては参考にする日々が続く中、3

月29日にはFacebookに「新型コロナナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」が立ち上がり、文字通り「知恵と情報を共有する」場として、瞬く間にグループ参加者が膨れ上がった（5月2日夕方時点で1万8090人が参加。学生や高校教員も参加している）。

この投稿からは多くを教わった。たとえば、同時双方向のオンライン講義に際して、受講できる静謐な環境は住まいにあるのか、ネット環境はどうか、受講生が動画を眺め続ける際の集中力の持続や疲れをどう緩和できるか。学生の学習権を考えれば当然考慮すべきことだと今では思える。だが、当初は考えが及ばなかった。また、非常勤教員への情報共有と費用負担をどうするか、システム担当職員の状況、セキユリティ対策など、クリアしなければ持続不可能であるポイントは数多あった。くわえて、高校教員で大学生（新入生）の保護者である方からの「娘は毎日、大学からの連絡を心待ちにしています」との投稿は胸に

刺さったし、これまでに同時双方向のオンライン講義を部分的にでも実施していた大学の「オンライン受講環境の実態調査」「ルーター貸出」「オンライン受講によつて学習権を担保することを明言・約束した学長メッセージ」といった修学支援の仕組みなど、本学でも参考にすべき点が数多認められた。

何より、多くの教員が不安を抱えつつも、講義室で授業をすることの意義を改めて噛み締めながら、ゼミ生らの声を参考にして現場で頑張ろうとする様子に、励まされた。

4月も後半に差し掛かる頃、1学期の授業が始まった。オンライン講義を推奨しつつ、アプリに関する講習会をわずかに実施するのみ、大学図書館も早々に閉館した本学の修学支援の仕組みは、相変わらず脆弱だった。

ただ、先述のグループで知り得た他大学の様々な実践や状況を踏まえ、受講環境に関する調査を事前に行つてどのような講義形式が受講生の学習権を担保

する上で望ましいのか検討する余裕を持たせたことは、救いだつた。調査の結果、携帯電話大手キャリアがデータ容量拡充をしても恩恵からこぼれ落ちる学生や、共働きの両親を持ち日中はきょうだいの世話を担つたり、実家に戻っているがゆえにWi-Fiの電波状況が良くない部屋しか静謐な環境がないという学生は、少数だが存在した。回答を受けて細々ながら、調査の結果を講義の実施形式に反映させたり、執行部に対し修学支援体制の要望を提出するなど、改善を実践・働きかけている。

年度初めはいつも、キャンパスは学生で溢れていたことを思い出す。相手の表情を見ながら解説をすること。話し手の表情を含めて受け取ること。講義後すぐに、学友と議論できる環境があること。

講義室で学生と教員とが対面で向き合い、講義のみに集中できる空間があることがどれほど意義深いのか。失われて改めて痛感しているのは、学生だけではない。

(つづく)

## せきれい 鶴鴿短歌会

### 四月詠草

そら豆は空に向かひて莢が生る未来に伸びるみどり児のごと

コロナ禍に四月八日の花まつり甘茶を汲むも手袋マスク

中村美喜子

羅生門、映画と小説その違い芥川小説再度読みたり

幻の湖上に遊ぶ過ぎし日の熱きときめき今も忘れず

西 武喜

新コロナ「何々中止」の日々なれどスーパーマン地球を照らす

体操を終へたる後の朝食のその美味しさにバンザイ叫ぶ

釜田 操

二月の利休の忌に咲く利休梅可憐な花に往時を想ふ

よろよろと杖つき歩く我に寄り二歳の男の子話し掛ける

三原 光代

「さくらばな梅花のように散ってくれ」桜咲く道散歩に励む  
幼きに耐えた日々を思い出し見えないコロナと戦ひ居りぬ

中原 康子

雪山の風の笛聞き山歩き陽だまり岩の福寿草見つつ

氷雨降り遠くにかすむ宿灯かり頂上見へて心和めり

枯れ芝に膝の感触試しつつ友と楽しむグランドゴルフ

※令和二年県歌人協会短歌大会入賞作品

橋詰 了一

寝たきりの父の手を取り呼び掛けば臉の奥に涙うかべて

嬉しさに曾孫の様子見に行けば保育器の手足が踊り

守永 和久

街なかをセピアに変へし感染にコロナのニタリ闇に光りぬ

木洩れ陽を浴びて語りし友は来ず故郷の春今年は寂し

河内 徹夫

八十を越へて吾が裡気づかざる愛憎絡むドラマの中に

薄らかに茜に染まる白き雲香の立つごとし夜明けの空は

堀田 英雄

# 新宮家略系図

溝下昌美

本稿は渋谷敦先生が生前、渋谷家系図などとともに、原稿用紙に浄書、整理されたものから新宮家（旧人吉市土手町）分を抜き出したものである。大分以前、活字に起

こしていたのであるが、今回パソコンに残存していたのを確認、一部省略し、加筆を行った。（作事奉行）等は役職名で、経歴、没年、墓地等が記載されている。経歴等一部は『球磨郡誌』に拠った。



新宮庄太夫墓

益田啓三氏は近著『球磨霧此ノ如シ』で、浪岡市郎右衛門とともに新宮簡を劇的に詳述された。また、最近、新宮簡の写



馬上の人が新宮忠三郎（土手町新宮家）  
「大正初期の人吉町と開業医」（堤繁）より転載

真を発見・確認された。ご同慶の至りである。  
本系図を見るだけでも多くの事が想起されるが、今後取り組んでみたい。

【みぞした・まさみ／球磨郡湯前町】

## 新宮家略系図

六条判官源為義十男  
新宮備前守行家  
寿永二年癸卯被任備前守  
子孫連綿種貞二至ル二十四代

墓碑名羊頭先生  
眞嶽禪龍居士

姓源氏  
（作事奉行）  
新宮常右衛門種貞  
禪底自徹居士  
明和三年丙戌十二月九日卒  
延寿庵ニ葬ル

（物頭）  
新宮庄太夫名行雄  
妻犬童次右衛門治官二女  
大村住居後川辺村  
普月了照大姉 延寿庵

享保二十年乙卯十一月四日生  
文化二年乙丑九月朔日卒  
（物頭） 母片岡氏兼子  
（寺社奉行）  
新宮権平約室  
妻駒子 養父庄太夫長女  
寿山妙量大姉 延寿庵  
年八十九嘉永五年九月廿日卒

寛政八丙辰年十月生  
萬延元年庚申五月二八日卒年六五  
（物頭・大目付）  
新宮常五郎行光  
字龍父 号羊頭山人  
妻由見子 神瀬敬三郎一女  
明治十六年四月十二日卒  
年七十八玉峯院ニ葬ル

※

實ハ相良長寛ノ嫡子相良義休（政太郎）四男  
文政十年七月二六日生母新宮権平女 新宮常五郎養子  
明治十一年十一月三十一日玉名高瀬ニテ卒年五二  
玉峯院ニ葬ル  
（物頭・政事掛用人・権大参事・集議院幹事・陸軍裁判中主理）  
※新宮竹間（たけき）簡 行藏（こうぞう）土敬 棉水  
妻敏子養父常五郎二女  
明治二十二年十一月十二日卒六三 玉峯院ニ葬ル

竹間の長男弘化（乙巳十二月一日生  
昭和六年十月十四日卒年八七 玉峯院ニ葬ル  
（重野安禪に学ぶ 維新の後大学南校に学ぶ）  
新宮嘉善 号 堂 人吉隊に参画 人吉町長等歴任  
妻千代子渋谷周・三郎左衛門一女  
明治三十五年八月廿四日卒年四十八  
玉峯院ニ葬ル

長女佐家子 明治十二年十一月十九日卒年九  
長男 産太郎 明治三十一年七月三日卒年二三  
五高 大学予備校在学中卒  
二女淑子 明治十三年一月二十五日生  
三女馨子 明治十六年三月二十一日生  
一男徳三郎 早世明治十八年二月二十日卒  
二男忠三郎 明治二十年八月十日生 五高 早稲田大学  
拓殖大学卒 中野正剛 日野熊蔵と交友  
四女早世  
五女信子 明治二十三年九月二十日生  
四男四郎 明治二十七年十月二十六日生  
六女既済子早世  
養女静子 明治二十二年二月十六日生 新宮千磐二嫁ス

# 住みたい田舎ランキング2020 から人吉・球磨の未来を考える

人吉市医師会会長 岐部明廣



## その⑥

と出生数の差)も10数年前から拡大の一途である。そして社会減十自然減≒350〜400人が毎年の人口減少になっている。

これに30年をかければ30年後の人口減(30%以上)を推測できる。

人吉市は約1350人/年の転入者(移住者を含む)・統計上、転入者と移住者の区別が人吉市の場合されてない)に対して、約1550人/年の転出者がいる。つまりその差約200人/年が人吉

2020年2月号「田舎暮らしの本」(宝島社)が移住先選びに最適と銘打って「住みたい田舎ランキング2020」を発表した。繰り返しになるが、下記は人口10万以下の小さな町に限定のランキングだ。移住者数が点数に加点される仕組みだ。

- 2位 山梨県北杜市
- 3位 島根県飯南町
- 4位 大分県臼杵市
- 5位 兵庫県養父市
- (87・65点)
- 50位 (72・27点)
- 100位 (64・66点)

人吉市は過去50年間で社会増は3年しかなく、47年間は社会減である。ここ10年では毎年約200人の社会減である。自然減(死亡数

## 【総合部門】

- 1位 大分県豊後高田市
- (95・19点)

市の社会減である。仮に社会減がゼロになれば、人吉市は総合部門ランキング10位以内にはいる点数(82・98点)になる。

社会増を5年間(総計315人)も継続している豊後高田市は驚異である。「住みたい田舎ランキング」でも移住者数・社会増を重視しているようだ。

人吉市の転入者(移住者を含む)を人口1%増加させるということは今の約1350人より約300人増加させて約1650人/年にするということである。そうなれば約100人/年の社会増を達成できる。それがこれからさらに拡大が予想される自然減を緩和させる効果を生む。

30年後の人口減(30%以上)を

10%以内に抑制できるといいう島根県立大学教授の藤山浩(こう)氏の試算である。

これまで、その①〜その④までは総合部門第1位・大分県豊後高田市(95・19点)、第3位・島根県飯南町(91・24点)、第4位・大分県臼杵市(89・42点)をみてきた。今回は第2位に躍進した山梨

県北杜市(91・64点)をみてみよう。人口4万5111の日本百名山の八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山、瑞牆山にかこまれた登山スポットの多い登山愛好家には魅力ある町だ。

ミネラルウォーター生産量日本一、日照時間日本一、オオムラサキ蝶の生息日本一としても有名な町だ。自然環境がよい。

山梨県北杜市の取り組みは、

- (1)子育て世代包括支援センター・子育て支援住宅・子育て世代マイホーム補助金
- (2)移住体験談コンテストで総務大臣賞
- (3)農業体験施設および★移住定住お試し住宅
- (4)移住支援金(マッチング企業に就職または支援事業による起業)
- 職または支援事業による起業)
- 単身世帯60万円、2人以上世帯100万円
- (5)空き家バンク情報(写真付きでネット公開)
- (6)住宅改修等補助金(最大100万円)

大分県臼杵市にもあつた移住定住お試し住宅は人吉市にはあるのかなあ?

移住対策もお金がかかりそうだ。たいへんだなあ。

北杜市の財政規模は人吉市の1.5倍。

経常収支比率96・2%

積立金現在高 78億円

参考…借入金(地方債)

195億円

参考…財政力指数 0・45

人吉・球磨のみなさん、「くまがわ春秋」の、このシリーズのその①⑤を読んで「人吉・球磨の未来」を考えてみませんか。

考えるのが面倒くさい方は、「くまがわ春秋」その①その②で紹介した大分県豊後高田市(総合部門8年連続ベスト3)を取材し、令和元年10月15日20:00~21:49に

放送された★NHK BS1の番組後半の「あなたの隣の奇跡」地域を動かした人々の物語」を是非みてください。(番組のCD-ROMは人吉市役所で尋ねてください。

人吉市役所がコピーする意欲がないなら、私がなんとかします)とにかく★NHK BS1の番組をみて何かを感じよう。

それがスタートだ。

それから大分県豊後高田市の政策を勉強・研究・検討する価値があるか判断してみてください。

・「住みたい田舎ベストランキング2019」宝島社

・「住みたい田舎ベストランキング2020」宝島社

よ。 を読みたい方には御貸しします

## お休みどころ通信 ⑮ コロナウイルス感染症について

精神科医 興野康也

新型コロナウイルスの大流行が毎日テレビや新聞で報道されています。医療現場にいますと、毎年インフルエンザに悩まされています。当初はインフルエンザほどは怖くないのではと思っていました。インフルエンザは感染力も強いですが、高齢者では肺炎を併発して亡くなることもよくあります。認知症病棟のある僕の病院でも、毎年「インフルエンザが高齢の患者さんに広がらないように」と薄氷を踏む思いで過ごしています。世界的にも毎年数十万人が亡くなるそうです。

ところが新型コロナウイルスの被害は拡大する一方です。エボラ出血熱のように致死性の非常に高い感染症の場合、感染者の状態が重篤化して生活活動が

できなくなるぶん、感染が拡がりにくい面があるそうです。ところが新型コロナウイルスは比較的軽症であり、しかも症状があらわれないうちから感染が拡がってしまうため、拡大を止めるのが困難です。結果的には高齢者や基礎疾患のある人を中心に多大な被害を及ぼしています。「重症化し過ぎないぶん、制御しにくい」というところが憎らしいところです。

また新型コロナウイルスは現代の医療システムの盲点についています。医療システムのために、むしろ感染が拡がってしまう面があるのです。本来なら感染を止める場であるはずの病院の待合室や病棟で、どんどんうつっていきます。医

住みたい田舎ランキング2020から人吉・球磨の未来を考える―その①⑤―を書いたのは新型コロナウイルスの流行る前の昨年末でした。

都会人の移動制限「ステイ・ホーム」は、都会に住む人に大きなストレスになっています。コロナ後の都会の人々の心理を考えたときに、都会から田舎への人の移住の波が確実に来ると信じています。

ですから、コロナ後をみすえて、いまこそ人口減少に悩む人吉市はじめ球磨郡の町村の皆さんは「住みたい田舎」への取り組みを加速させるべきでしょう。

【きべ・あきひろ／人吉市】

療者にもこれといった対処法がないので、右往左往してしまっています。通常は病気を治しに行く病院で、逆に病気が広まってしまうとは逆説的です。

さらにいわゆる先進国の大都市を中心に感染が拡がっていることも逆説的です。通常なら大都市ほど医師数が多く、医療体制が高度で充実していると考えます。ところが人口密度の高いところほど感染が拡大しやすく、一気に患者数が増えるので、逆に医療崩壊しやすいという不思議な状況になっています。これも「難しいケースほど、大都市の専門病院で」という通常の医療システムの流れと反対です。

僕は今まで「感染症は現代ではほぼ制圧されている」と思ってきました。難しいケースはもちろんあるものの、精神科医療と比べると、ずっと対策が確立していると思ってきたのです。抗菌薬も種類が増えていきますし、衛生面も向上しています。少なくとも感染症対策の状況は悪化はしていかないとなくな

# 漢和字典は面白い

33

鶴上寛治

思ってきました。

ところが新型コロナウイルスへの対策をみていると、「外出を避ける」「社会的距離を取る」といった昔ながらのやり方です。急に何百年もさかのぼったような奇妙さを感じました。これだけ医療が進歩しているのに、いまだにウイルスに翻弄されるとは信じられないことです。

そういった僕が漠然と持っていた考えが、大きな間違いであることに気づいたのは、ある新聞記事を読んだときでした。國井修さんのインタビュー記事です(朝日新聞2020年3月25日朝刊)。「世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド) 戦略投資効果局長」という立場で仕事をされており、エイズ・マラリア・結核の感染拡大を抑えるために医薬品や検査機器を提供しているそうです。衝撃的だったのは、この3つの感染症だけで世界で毎日7000人が亡くなっているということです。コロナウイルスも多大な被害をも

たらしています。エイズ・マラリア・結核はずっと以前から深刻な被害をもたらし続けています。いずれも日本ではおおむね抑制されているので、日本の状況だけを見ると、世界規模の問題を見過ごしてしまい、対策が遅れてしまっています。感染症は世界的にみると、全然抑制されてはいけません。

怖いのは、ほぼ確実に今後も新規の感染症が起り続けることです。どこで読んだか忘れてしまったのですが、世界の人口が増え続けており、森林を切り開いたりしていることが、動物に感染しているウイルスが人に感染する背景にあるということです。なので人口爆発の問題が解消しない限り、新規の感染症のリスクも高まると考えられます。感染症単独の問題ではなく、人口問題が背景にあるのです。

加えて大都市への人口集中の問題、先進国での高齢化の問題、気候変動の問題なども関連してきます。感染症というのは世界全体の状況を反映するものな

のでしょう。現代は人の移動も世界規模です。どんな地域で起こった感染症も、世界的な大流行を起こす可能性があります。

強く感じるのは、医学だけを学んでいるだけでは対抗できず、「地球学」とでもいうものが必要だということです。地球規模でのリスク管理についての学問です。「人間は自然のなかで生きているので、自然が変わると翻弄される」というのは古来変わらない真実なのでしようが、科学技術が発達した現代においては、そのことを感じにくいのです。でも考えてみれば、地震・サイクロン・バツタの大量・気温上昇・干ばつなど、制御が難しい地球環境の問題に僕たちは取り巻かれています。人類の叡知を結集して、「人類が生き延びていく方法」を探していく必要があるでしょう。そして科学技術や現代文明の限界をもっと意識して生きていく必要があるのではないのでしょうか。

【おきの・やすなり／人吉市】

## 媒

音はバイ、結婚された時に婚姻届の証人欄に記名捺印してくださった方が媒酌人だ。触媒という言葉も化学実験の場で習った記憶がある。漢和字典には「男女の結婚をはかる」の意だ。なるほど、それこそ「ななかだち」は「媒」は「すすむ」、媒「バイ」は梅と同字。旁をなしている「某」は「それがし・自分の謙称・うめ」で、「子がささがるように祈るのに用いる木」だ。産め「梅」なのか? なるほど。

## 印

「印」は印鑑、それが押されるのも印と言う。「判」は手書きの署名で、本人しか書けないのはずだったが、印で捺したのも判と同じ効力を持ち、本人以外の者が捺したものも有効ということになっている。郵便物の配達を受ける時、手近かに印鑑がなく「サインでいいですか?」と訊くと、大抵「サインで結構です」との答え。——「逆じゃないのか! サインこそが第一で「サインが書けないので印鑑でもいいですか?」が正統ではないのか。「日本印鑑撲滅協会」の方の名刺裏には「日本印鑑撲滅協会之印」が捺され、表は当然「日本名刺撲滅協会」という肩書。

## 白

音読みはキユウで、訓読みは「へうす」。確も「へうす」で「佳」は敦に通じ「厚みがある」という意味があり、そこから「厚みのある石」つまり「石うす」となる。碓氷峠・碓井氏と、町名・人名に時々顔を見せる。白杵(ウスキ)餅つきが盛んな町? これは「冗談だが、これを町おこしの材料にできないものか。一年中餅つき体験ができるセンターとか、白と杵を型どった土産品をつくるとか。白は「猿蟹合戦」にも登場するキャラクターで、しかも最後のシメをなす役割なので、そんなゲームとか町内の観光ポイント・ラリーの名称にしたら(握り飯↓柿の種↓柿↓蟹↓猿↓蜂↓白) どうだろう。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

# 倉敷便り

40

絵と文／原田正史

## 倉敷の自然

私が倉敷へ移住した平成二十七年頃と現在とでは、住宅が散在する田園地帯の自然環境はかなり様変わりしています。以前は、道路沿いに設置されている灌漑用の水路には水草が生い茂り、数十匹ほどの小魚が群れをなして次から次へと遡上する姿が見られました。用水路には餌となる小魚が豊富なことから、大小様々な水鳥たちが飛来し、初めて耳にする鳴き声を聞くことが出来ました。時には悠然と泳ぎ去る鯉の姿を見る

ことも珍しいことではありませんでした。水田に水が入り、田植えが終わる頃になると年中行事である蛙の大合唱が始まります。西側から南側にかけての周辺一帯を水田に囲まれている我が家では、蛙の鳴き声はすさまじく、一度気にかけてたら容易に眠られぬほどでした。

水田の一面には、真っ黒で大きなジャンボタニシが足の踏み場もないくらいに群がっていました。水田そばのブロッコ堀のいたる所に、ピンク色の卵の入った袋が産みつけられているのが見られたものです。もともとジャンボタニシは、業者が食用にするため

に外国から輸入して養殖したのですが、養殖池の管理が不十分であったため、その一部が外部へ逃げ出して水田に入り込み、猛烈な繁殖力によって、近隣の水田がまたたく間にジャンボタニシだらけになってしまったのです。倉敷にも、もともと在来種のタニシがいたのですが、ジャンボタニシによって絶滅させられたのです。

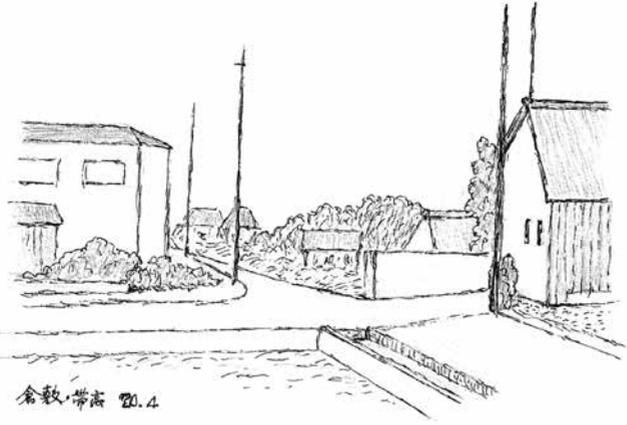
私は学生時代、病気のために一年間休学して、佐賀県の親戚の家で暮らしたことがあります。海岸沿いの佐賀平野の水田には在来種のタニシが数多く生息していて、祭りの時などには味付けされたタニシのむき身が竹串に刺されて出されたものでした。倉敷の友人によると、自分は食べたことはないのだが、少年時代にタニシを採って人にやったら大変喜ば

れたとのことでした。このことから倉敷でも佐賀と同じくタニシ料理が存在したのは確実だと言えるでしょう。在来種のタニシ料理はコリコリ

した食感で、大変おいしいものであったのを数多く食べた体験者の私が証言しておくことにします。なおタニシの味付けは砂糖醤油仕立てです。

ジャンボタニシについては、見た感じからでも美味でありおいしくないないように思われます。ところが驚くべきことながら水田地帯から、ある年を境にジャンボタニシの大群が完全に消え去ったのです。消えたのはジャンボタニシだけではなく、水田の雑草

も、水路の水草や魚、蛙や蛇も、日々成長する稲だけを残して、殆どの生物が消滅したのです。現在、用水路で平然と生き残っているのは北米原産の緑亀だけです。用水路には、配水管が設置されていない家の排水も流れ込んでいることから、その中に含まれる物を餌にしているのでは



倉敷・帯高 20.4

も、水路の水草や魚、蛙や蛇も、日々成長する稲だけを残して、殆どの生物が消滅したのです。現在、用水路で平然と生き残っているのは北米原産の緑亀だけです。用水路には、配水管が設置されていない家の排水も流れ込んでいることから、その中に含まれる物を餌にしているのでは

私のおぼろげな記憶からすると、この年は平成三十年だったように思われます。倉敷には山地も丘も存在しますが、ここは以前と同じような生物が生存しているようです。そうであれば、時間はかかるとしても、平成三十年以前の生物分布の状態に復帰出来る筈です。実は今年に入っ

このコーナーは、facebookグループ「俳句大学投句欄」で、毎週末に募集しているページからの転載です。

風光る(かぜひかる)

「春-天文」

野島正則

【季語の説明】

「風光る」は寒暖を繰り返しながら日差しは徐々に強くなっていき、鋭かった風もやや弱まり、風も光ってみえるようだ、という感覚的な季語の一つ。動詞「光る」には、『光を反射し輝く』という意味があり、太陽の光に輝いて見える、ということである。江戸時代から使われ始め、特に明治以降好んで使われている。

● 富士望む段々畑風光る

【永田満徳評】

「風光る」は春風がきらきらと光り輝くように感じられる外の情景と取合せた句が多い。掲句は日本の代表的で秀麗な「富士」に日本の原風景とも言うべき「段々畑」を配置した情景であるところがいい。

田打(たうち)

「春-生活」

杉山 満

【季語の説明】

「田打」は春田の土を田植えの用意に鋤き返すこと。収穫が終わった田圃は、新たな稲作のために土地を整える必要がある。田起こし(耕起)することにより、田圃に豊かな酸素を取り入れ、その後に続く代掻きという作業を効率的にできるようにする。最終的には土を細かくして、平らにすることを想定して耕す。

● 百年の歴史重たき田打かな

【永田満徳評】

「田打」は今でこそ機械化されて、随分楽になっているが、昔は重労働であった。掲句は、一枚の田にも、長い年月を掛けて、代々守りながら受け継いできた、一族の「歴史」の重さがあることをよく詠んでいる。

独活(うど)

「春-植物」

大津留 直

【季語の説明】

「独活」はウコギ科に属する多年草で、葉は大型の羽状で、球状の白い小花をつけ、高さは二メートル近くにもなる。日本特有の植物で、日本各地に分布し、山地に自生しているが、栽培もされている。古くから食されてきて、地上に出る前の若い莖は香気と歯ざわりがよく、吸い物を始めとして、生食・和え物などにする。

● 鬼岩の力を借りて独活を掘る

【永田満徳評】

「独活」は斜面に自生するので、何かに頼って採るほかない。掲句の場合、「鬼岩」がパワースポットの石であればこそ、「力を借りて」は納得される措辞で、独活掘りの一場面がうまく切り取られている。

【ながた・みつりのり/俳人協会会員、熊本市】

て、そのようなことを予測させることがありました。以前は数多く見られた青鷺を、一匹だけながら用水路近くで三月に目撃したのです。さらに四月に入って白鷺の夫婦が水田にいるのを見ました。いずれも平成三十年以降としては初めての出来事であり、水田地帯の生物分布が平成三十年以前に回帰しつつあることを示すものだと言えるでしょう。

したがって水田地帯にも以前のようには蛙の大合唱が聞こえる夜が訪れるに違いありません。これからはうるさい等とは思わず、頑張り蛙たちと、応援したいものです。人は、周辺の雑多な生物たちと共存して生きていく生き物なのですから。

【はらだ・まさふみ/日本地質学会会員、倉敷市】

くまがわ春秋歌壇

いも短歌会

「責任は私にある」と言いつつも「取る」とは言わぬこの鉄面皮  
路上死や孤立死絶えぬ新コロナ安倍の失政日々にあらわに

柳原 三男

落ち椿わらに通して遊びたる里の友らも八十路越えたり  
山里に椿にこぼし菜の花にピンクの桜 春はたけなわ

坂本 ケイ

ウオーキングに出ていく夫を見送りぬ車椅子にて脚力ませて  
娘が作りし柄入りマスクでリハビリへ今やおしゃれのひとつとなりぬ

上田 迪子

かけがえのなき命にかえて訴えし一字一句は真実に溢れ

「コロナ禍に救われたとでも思うとらんど」心中見透かす友の慧眼

上田 精一

## 愚感随想② 「同窓会」 雑感

富永和信

脱帽であった。

人間誰しもあると思うが、年齢を過ぎて還暦前後になると小・中・高校時代の旧友たちに無性に逢いたくなるようである。

それは望郷が先にあつての旧友なのか、旧友を通して故郷の風の香りを思い出そうとする帰巢性なのか分からない。それとも故郷と旧友も一束になつて、ただ懐かしいものへの郷愁なのであろうか。

私の個人的経験からすると、四十、五十歳代というのは仕事上で、最も充実した年齢であつたので、心身・時間ともに余裕のない時代であり、正直言つて同窓会どころではなかつた。

もちろん、そんな時代においても  
の場合尚更である。適切な表現ではないが、出席していつも思うのは真面目で心やさしい旧友たちが先に逝くような気がしてならないのほうしてだろう。

私が思うに、同窓会は残りの人生の先の見えた者たちが折にふれて相集い、「おお、お前もまだ元気で  
おつたか。俺も病院通いしながら、  
なんとかやつとるばい」と、飲むほどに酔うほどに元気をもらい合ひながら、いつもの話に終着するのである。このような同窓会に、老いて出席できることは、天が与えた何ものにも代えがたい褒美と感謝すべきと思うのである。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

自慢話を聞くのは御免である」などの理由があるという。

最後のくだり「同窓会は劣化した者同士の老後の楽しみに取っておけ。同窓会に行くのは恥ずかしい？ だったら行かなければいいのだ。ただそれだけのこと」とあつた。

前段の趣旨は当節の社会の二面を捉えているが、現役世代の人たちにとっては、その理由は様々で、百人百様の事情がある。

最後の結論は、秋霜烈日の二刀両断である。私は一言文句があるが、反論できない殺し文句だと感心し、

しており、同地区会員にしてもらつている。しかし残念ながら同会も会員の寄る年波に勝てず先年、打ち止めとなつた。

同期会での話題は年代によつて代わってくるが、これもまた面白い。そのなかで相変わらぬの話題は、なんとと言っても孫や子の自慢話、そして自分や女房の病院通いの話になる。

最後の極めつけは、飲むほどに自分の老いたるを忘れて、「あのな、高校時代みんなの憧れの的だったマドンナの彼女に逢うたが、昔の面影はなかつたばい。別人で、どこの婆さんじゃるかと思つたばい」とくる。

しかしなんと言つても、寂しく感傷的になるのは旧友の旅立ちの話題。なかならず、特に親しかった友

長兄が守っている実家や墓参に、時間を見つけて折々帰郷していたし、また昔のあの友、この友を想い忘れることはなかつた。これが人間の望郷本能というものであろう。

多忙な第一の現役時代を過ぎて、第二現役になつてようやく時間的余裕が生まれてから、やみくもに同窓会（同期）会への指向が強くなつてきた。

私は人高五回生、昭和二十八年（一九五三）卒業である。同期とはどういふものか連帯感が強く、東京・福岡・熊本の各地ごとに同期会を設けて、それぞれ各様の活動を続けている。私はいずれの同期会にも節目の同期会に顔を出している。特に熊本二八回（同期会の名称）には長年にわたつて毎回参加

# 小説・相良清兵衛

29

山口啓二

「休矣殿ご覧あれ。薩摩武士たちがこれからまた堅志田の城を攻めます。これまで我が軍が幾度となく攻めましたが、いやそれがなかなか落ちませぬ。どうか相良武士の力をお貸しくださいませぬか」

島津家家老上井覚兼は伊集院忠棟や新納忠元ら重臣とともに堅志田城の見える峠道にいた。傍には犬童休矣と深水宗芳の嫡男撰津助、宗芳の弟帯刀とその嫡男佐馬助、そしてその横には軍七が立っていた。佐馬助が、

「父上、我が相良軍が攻め入って城を落としませうぞ。ここで更に手柄を立てれば島津の御屋形様も文句はありませんまい。まさに今が一番かと」

「まだ御家老が軍議からお帰りになっておらぬゆえ、事はそれからじゃ。それに島津の事は知らぬが我等相良の武士は独断で動くことはまかりならぬ。それはそうとお主、臆病者のくせに言う事だけは一人前じゃな」

結果はどうであれ、帯刀は先日島津の若手の甲佐攻めを皮

頭を下げて敬意を示した。それはここにいた薩摩の武將たちも同じ気持ちであった。

言われていた通り堅志田の城はなかなか手強く見えた。堅く頑丈な大手門の横はぐるりと土塁が張り巡らされていた。

すでに島津軍は堅志田城の周りを取り囲む家々に火を放つていて、そのほとんどの家はすでに燃え尽きようとしていた。相良勢は正面の大手門めがけて攻撃する手はずである。勿論その中には軍七と撰津介ら、相良の若い武士たちを始め全軍が揃っていた。敵の攻撃は思ったより激しく、先陣で突き進む相良の兵に向かって土塁の上から弓矢

と弾丸が雨のように撃ち放たれた。

「撰津介様、今こそあの荷車を使いませうぞ」

「おう軍七、手筈どおり皆に指示いたせ。あの大手門まで何とか進むのじゃ」

兼ねて軍七と撰津介が考案し用意していた、荷車の前と両面と頭上に濡らした二重の戸板を張り巡らせ、それに弓と鉄砲を構えた兵士を配置、それを後ろから押して進

【前回までのあらすじ】「流罪」という裁きを受けた清兵衛は、弘前藩津軽家へお預けの身となっていた。弘前藩主・信義公は昔話をしきりに聞いてきて、五十年以上も前の朝鮮出陣の話や島津軍との争いの話にも及んでいた。

肉つた。そして息子佐馬助の言葉にも口を挟んだ。佐馬助は戦いが嫌いというより、まともな剣捌きが出来なかったのだった。

休矣たちが堅志田城の攻略策を始めたところ、島津との軍議に加わっていた宗芳からの伝言が来た。

「ご家老からの御伝言にごさいます。島津相良全軍をもって堅志田を攻めるとこと相成ったそうにごさいます。やはり先陣は我が相良にとの事」

「ん、相判った、島津の方々そういうことにごさる。この上は是非とも堅志田を手に入れませうぞ」

「おお、それは心強い。休矣殿、誠にもって大変な役回りではあるが、何卒お頼み申す」

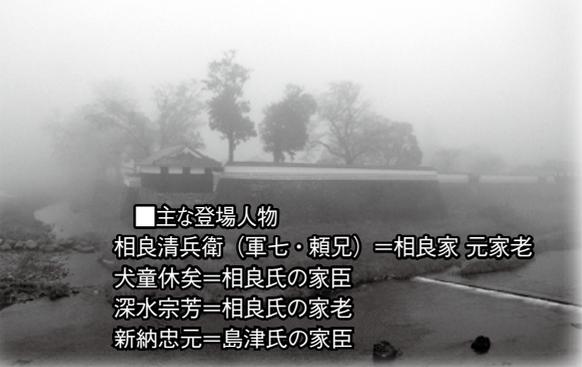
新納忠元と上井覚兼は格下に当たる軍門の犬童休矣に対し、

む、いわば装甲車の原型となる兵器で応戦した。その陰に隠れ相良兵が進み、他の兵士も立ち木や燃え残った家の陰に隠れるようにしてどうやら進むと、大手門はすぐ前に見えて来た。後ろからは島津の火矢が門に向けて多数放たれたが、頑丈に作られた門はなかなか燃え上がらなかった。ついに島津軍は一斉攻撃に出た。執拗な敵の攻撃を受けつつも、数台の装甲車を先頭にして突き進み、大手門の傍の土塁を大勢が駆けあがった。

敵の矢や弾は容赦なく味方を打ちぬき、土塁に到達するまでかなりが倒れていった。それでもその上を踏み越えて進んだ。勿論軍七もその中に紛れていた。城内ではすでに先に侵入した多くの島津兵が敵と刃を交わしていた。軍七は傍にいた数人の相良勢に声を掛け、門のかんぬきをはずしにかかった。漸く大手門が開き始めた。すると山城のほうから下った新しい敵が攻め込み、軍七らはその兵らと立ち向かった。

その斬り合いの真最中、敵の弾丸が軍七の兜に命中した。あまりの衝撃に軍七は膝をついて前に倒れ込んだ。刀を持つ手に力が入らず意識が薄れて行くのが判った。その時やつと大手門が開き、相良と薩摩、志岐、天草の援軍も一斉に城になだれ込んで来た。倒れていた軍七に気付いた徳右衛門と弥兵衛が駆け寄り、迫りくる敵から槍を守った。

「若くつ、御氣を確かにもたれませい〜〜〜」



■主な登場人物  
相良清兵衛（軍七・頼兄）＝相良家 元家老  
犬童休矣＝相良氏の家臣  
深水宗芳＝相良氏の家老  
新納忠元＝島津氏の家臣

軍七の意識は戦いが終わつてもさらに夕刻まで戻らなかつたが、軽い傷はあるもののいずれも致命傷になるようなものではなかつた。ただ、兜のちょうど真ん中にある鎧具に弾丸が命中したので、ひどい脳震とうを起こしていたのである。気が付いた頃は陽も西に沈みかけ、辺りは静けさを取り戻していた。

「うゝむ、まだ俺は生きていたのか」

すぐ傍で火を熾し始めていた徳右衛門が、握り飯を喰っていた弥兵衛に、

「弥兵衛、若の意識が戻られたぞ。すぐに水を差し上げろ」

「おお、若、大事にならなくてようござりました。御覧なされい、敵の弾が兜の真ん中に命中しております。少しでも反れておつたら御命は無かつたやも知れませぬぞ」

「ああ、もうこれで終わりやに思つたが危うく命拾いをしたな。かたじけない。で、城は」

後ろにいた深水帯刀が、

「安心いたせ、昼過ぎには落とした。しかし堅い守りではあつたが中に入ると意外と容易く落ちよつた。これもお主らが恐れもせず城中に入りかんぬきを外したからだ。新納殿も伊集院殿もさすがは相良武士とこのほかお褒めであつたぞ」

「どうぞございましたか。しかし戦のさなかに気を失うとは誠に面目ないです。して父上は」

「休矣殿はいま御家老と摂津介と島津の軍議に加わつておられる。残る大仕事は高森と阿蘇の大宮司じゃ。いずれにせよ阿蘇や甲斐の滅亡はもうすぐよのう」

「隈本が平定したら次はいよいよ豊後攻めか。戦はまだまだ終わりそうにもありませんね」

堅志田城落城と聞いて阿蘇の各城主たちも恐れをなし、こごとく島津に人質を差し出し降伏を始めた。宗運の息子、甲斐秀親に至つては御船の自城を捨てて行方不明になつていた。矢部に館を持つ阿蘇大宮司家も人質を出して島津に付いた。これで残すは高森城のみとなつた。

この度の堅志田城戦をはじめ相良軍の大いな活躍を認めた島津義久は、上井覚兼や甥の島津忠平らの提案によつて、相良先君義陽公が戦死した因縁の地『響野原』を相良に遣わす旨連絡をして来た。これもまた島津独特の策略でもあつた。

深水三河守宗芳は、兄忠房公亡きあと数え十二歳で家督を継いだ頼房公（のちの長每）と、その母君・台芳尼と共に、館の一番奥の大広間でその薩摩の使者の知らせを聞いた。家中の皆は大いに喜び、宗芳は嫡男摂津介や軍七ら数十人を供に

さつそく鹿兒島の館に島津義久を訪ね、響野原のお礼を申し述べた。義久は早速の相良のあいさつに気を良くし、

「堅志田をはじめ、此度の戦ごとく相良の衆の働きはまことにまつて見事。ま、響野原は義陽公が余に変わつて亡くなられた因縁の場所、生涯忘れられるわけにもいかぬが、相良にとつても大事な場所、墓でも作つて差し上げて末代まで申うが良からう」

「誠にもつてかたじけないお言葉にございます。本来ならば我が主君がお伺いせねばならぬところ、取り急ぎ拙者が参上いたしました。その旨早速取り計らいまする」

「相良の若殿様はそちをはじめとして良き家臣を持たれてうらやましいのう。相良武士の心意気は大したものよ。これまでこの大國薩摩が何度攻めても易々と落ちぬ訳じゃ。一昔前に大口で失態を犯した丸目蔵人佐もこの度我が軍の加勢をしてくれた。そう言えば息子殿や休矣殿の倅軍七の手柄話も聞き及んでおるが、これからもこの義久に力を貸してくだされ」

やはり丸目蔵人佐は相良には戻らず、今は島津の配下になつて働いていた。

もはや相良も我が手のうちのものとさらに確信した言葉であつたが、義久に従わねばこの戦乱の世を生き抜く事は出来なかつたのである。三河守宗芳は頭を置にこすりつけるように平

伏して言った。

「は、出来るかぎりのお手伝いをさせていただきます」

「早速じゃが三河殿、お主はこのほか連歌が上手いと聞き及んでおる。覚兼を呼んでおるゆえ酒でも飲みながら楽しむうではござらぬか。覚兼にはいつもやられてばかりでつまらぬのじゃ」

「信義殿、今日はこれくらいにしておきましょう。もう日が落ちてきてございます」

津軽信義公と老臣たちは、時の経つのも忘れて本然の話に聞き入つていた。

「おお、もうそんな時刻にござつたか。本然殿の話が何とも面白うて、ついで刻の経つのも忘れており申したわ。今日はこれにて失礼仕るが、この続き、また明日にもお聞かせ下さいませぬか」

「明日でござるか。今日は少しばかり話し過ぎてござる故、さて、この年寄りに明日まで元気がありますやら」

「いややそれは誠に無念。では明後日では如何で。是非そつういたしましたようぞ。そうじゃ大学、そちは奥に申し付けて昼餼を用意いたせ。昼前に届けさせるよう段取りをするのじゃ」

「は、かしこまつてござりまする」

翌々日、本然たちが朝の食事を終えてしばらくすると、信義公は大道寺隼人、松野大学のほか更に数人の従者を供に本然の住まいに來られた。従者のうち一人は酒樽を手に入れた。

「本然殿邪魔を致す。一昨日のお話、誠に面白うござったので、本日は大勢で押し掛け申した。さて、先日の続き聞かせて貰いましょうぞ」

信義公は言われる前に屋敷に上がり込み、清兵衛本然の話の続きをすぐにでも聞きたい様子であった。

「さて、どこまでお話し申し上げましたかのう。おう、そうじゃった。堅志田の城を陥れたところまでござったなあ」

天正十三（一五八五）年、隈本のほぼ全部を手中に治めた島津義久は相良の軍勢を従え、日向の国から豊後攻めを行い、大友宗麟の南領地を手に入れた。

阿蘇大宮司家ほか始どの城主が降伏した中、阿蘇の南・高森の城主高森惟直だけは未だに抵抗を続けていた。どこころか府内の大友に内通との噂まであった。そこで島津の次の目標は高森城に決まった。軍議では、先陣の役目を言われる前に深水摂津介が名乗りを挙げた。

「新納殿、このたびの高森攻めは先君義陽公の誠の甲い合戦。ぜひ我が相良に先陣の名譽を戴きたくござりまする」

「おお、左様か。さすがは相良家筆頭家老の嫡男摂津介殿こちらからお願するつもりであったが、引き受けて頂けるならなお有難い」

新納忠元はやはり相良を先鋒と決めていたのだった。そこに休矣も同席していたが敢えて何も言わなかった。どっちにしろ先鋒の役目は相良が務める事になっていたからである。その後各陣営の配置も決まり決戦の日取りも例の如く籤をもって決められた。

「軍七、この度の高森攻めもまた我らが先陣を切る事と相成ったぞ。それもな、此度はわしがその指揮を執る事となった」

「摂津介様、それは頼もしい事にござります。軍七も摂津介様のお力になりとうござります」

「高森の城はなかなか堅固らしいゆえ、島津方総陣営で攻めかかる。その先陣の総指揮をこの若輩者のわしが取る事になったのだ。誠に名譽なことだ。ま、責任重大だがな」

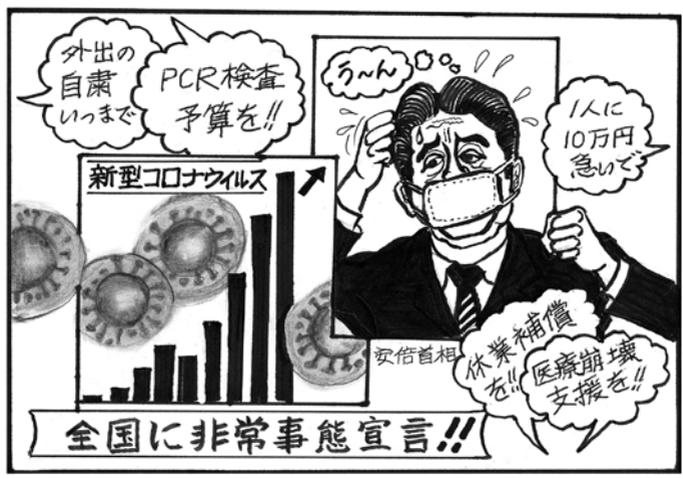
「誠にもつておめでとうござります。軍七も精いっぱい戦います。この先も摂津介様にどこまでも付いて参ります。島津様に就いておられる丸目藏人佐殿とお逢いしたいものです」

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

かんご...

げっかん・ぎびょう



—いつまで続くのか? 不安高まる—

自粛で生活が一変。政府の緊急事態宣言の期間延長が決まり、底なしの様相。生命と暮らしを守る明確な対策を急いでほしい。

外来語から学ぶ英単語 (50) …… 藤原 宏

ボ・ビューティー・ビューティフル・ベル・ベル  
beau beauty beautiful bel belle

賞与の意の **bonus** (ボーナス) の語源・ラテン語「**bonus** (ボヌス、良い) の縮小形「**bellus** (ベッルス、美しい) からの派生語です。

フランス語「**beau** (ボ、美しい) の名詞形「**beaute** (ボテ、美しさ・美) が、英語に「**beauty** (ビューティー、美しさ・美) として借用されました。「**beauty contest**」(美人コンテスト)、ヨーロッパの民話「**Beauty and the Beast** (ビースト) (美女と野獣) の **beauty** は美人の意で使われています。

**beauty** の形容詞形 **beautiful** (ビューティフル) は外面的に美しいと同時に内面的にも「立派な・すぐれている」意が含まれます。類義語の **pretty** (プリティ) は表面的に「きれい・かわいい」意で使われます。

19世紀後半に活躍したフランスの作家モーパッサンの長編小説「**Bel-Ami** (ベラミ) (美しき友) (1885年) はボーイフレンドのことで、これに対するガールフレンドは「**belle amie** (ベラミ)」となります。

「**daisy** (デイジー、ひな菊) の学名ヒナギク属「**Bellis** (ベリス)」は、その美しく可愛い姿から命名されました。

(417)

大午莠 (ダイゴボウ)

— 人吉市中林町 —

人吉市中林町字大午莠 (房とも書く) は下城本町に接する。旧村名で言えば林村と大村の境地である。米・麦・稗・粟・豆・大根・菜などの農作物の名称をつけた地名は各地にあるが、それは名を借りているだけであって、それらの作物とは関係がないことは既に述べた。中林町の大午莠も「大きなゴボウの産地」というわけではあるまい。

球磨地区は昔からゴボウの特産地である。有名な球磨民謡・六調子にも「…牛莠つとやら山芋つとやら、担わせてかるわせて…」とハヤシ言葉

にゴボウが登場するくらいで、地域の人たちにとってはゴボウはお国自慢の特産物だったのであろう。

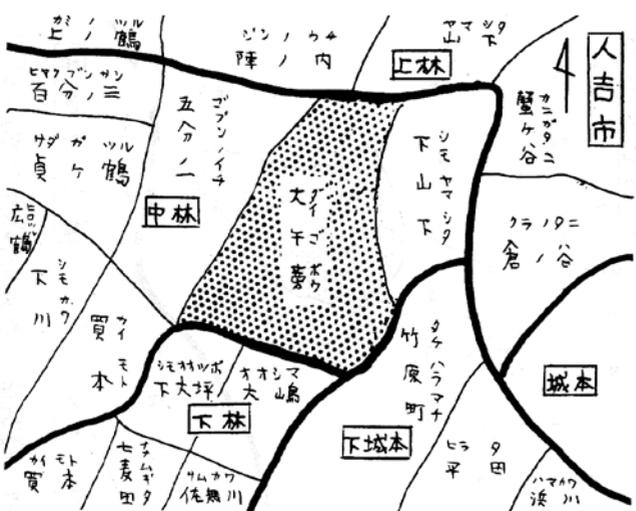
だからと言って、ゴボウそのものが地名になるとは思われない。ゴボウ地名は全国区型の分布で、熊本県内の学名のゴボウ地名は左記のところにあるが、牛莠産地とゴボウ地名は結びつかないのである。

▽午房草 (ゴボウクサ) 小国町赤馬場▽上東・西午房迫 (ゴボウサゴ) 高森町矢津田▽南午房 (ミナミゴボウ) 清和村高月▽北午房ヶ迫 (キタゴボウガサゴ) 同▽午房智 (ゴボオチ) 河浦町立原▽午房畑 (ゴボヲバタ) 松島町亀川▽便午房 (ビンゴボウ) 新和町中田

『日本地名索引』には大分県の大悟法 (ダイゴボウ) が出ているものの、人吉市の大午莠と同意か否かはわからない。佛教では佛法守護の護法神 (ごぼうしん) があるが、地名

のゴボウに結びつくかどうかは明らかにされていない。午莠の古語はキタキスで、実を薬用に使っていたことから悪実とも善かれたが、これも地名とは関係なさそうである。

特殊用語としては牛莠注連 (ごぼうじめ) がある。これは大根注連 (だいこんじめ) が太く短いのに対し、細く長いシメナワのことである。上益城郡清和村高月字南午房の近くには字南大根 (ミナミダイコン) があり、午莠・大根地名はともに境界標 (しめ) にちなむ地名のようにも思われる。



【つえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

漢字は牛莠が正しい。牛をゴと読むのは呉音である。しかし、ゴボウ地名は宛て字が多く『日本地名索引』には御坊、古峰、五万、御宝、午房古豊などが出ている。

このようにゴボウ地名の用字は牛莠 (午房) に限らず多種多様であり、地名研究者の闇でもゴボウ地名の解明については定説がないのが実情のようである。

『地名の語源』(鏡味完二・明克)には「ゴボ」①短小な谷、小大地 (午房野、午莠作、牛莠、根方、小坊、小房、ゴンボ坂) ②寺院 (御坊) とあるが、人吉市の字大午莠にはあてはまりそうもない。

球磨川の駅・ものがたり  
＝肥後線(川橋)とくま川鉄道の各駅探訪＝  
熊本産業遺産研究会 松本晋一

**31連本誌に  
駅載された  
一冊に**

●A5判 212頁オールカラー  
●定価 1,650円 (税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

**発行:人吉中央出版社 0966-23-3759**

問1 八代市出身の作家・澤宮優の作品を5点挙げよ (例:『集団就職』)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )

問2 人吉市出身の作家・前山光則の作品を5点あげよ (例:『球磨川物語』)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )

問3 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

(例:「SL 人吉、最低でも5月末まで運休予定である。○」)

- ①新型コロナウイルスの感染対策としての10万円は現金では受け取れない。
- ②政府は戦後に皇室を離脱した旧宮家に皇室復帰について聞き取りを開始した。
- ③検事総長は法務大臣の指揮命令にしたがう。
- ④患者は輸血治療を拒否する権利をもつ。
- ⑤八代城(松江城)には天守閣はなかった。
- ⑥「法の支配」の反対語は「人の支配」である。
- ⑦坂本の製紙工場の製品は印刷局に納品されたことがある。
- ⑧人事院勧告は地方公務員には適用されない。
- ⑨「収束」と「終息」は同じ意味である。
- ⑩ GNP は一国の経済活動の指標のひとつである。

問4 大韓民国(「韓国」)の歴代大統領を5人挙げよ (例:文在寅)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )

問5 以下のナンプレ問題を解け(空白マスに適切な数字をいれよ)

1	2		3	4		1	2	3
						8		4
	9	6	7			7	6	5
7	8		9					
	6		1	5				
	4		8			2	3	1
	3	9	2			4		6
						5	8	7
8	7		5	1				

問6 国王(女王)が存在する国を10ヶ国挙げよ (例:イギリス)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )
- ⑥ ( )
- ⑦ ( )
- ⑧ ( )
- ⑨ ( )
- ⑩ ( )

※答え合わせは次号でおこないます  
前号の答え合わせは79頁で

## 前号【くまがわ学習塾③④の答え】

問1 球磨川本流が流れている自治体名を書け（例：人吉市）

- ①（ 水上村 ）
- ②（ 湯前町 ）
- ③（ 多良木町 ）
- ④（ あさぎり町 ）
- ⑤（ 錦町 ）

問2 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

（例：スペイン風邪の発生地はスペインである。×）

- ①沢田一精知事時代に、荒瀬ダムの撤去が決定した。×
- ②警察庁長官は法務大臣の指揮命令にしたがう。×
- ③地方議員は地方公務員共済の組合員である。×
- ④アメリカの大統領で3期務めた人物はいない。×
- ⑤コロナウイルスの「コロナ」はラテン語の肺炎にあたる言葉（「CORONA」）に由来する。×
- ⑥麒麟は、中国にかけて実在した動物である。×
- ⑦熊本県には副知事はいない。×
- ⑧坂田道男八代市長は、市長になる前は、旧制第五高等学校（現在の熊本大学）の教授であった。○
- ⑨安倍首相が東京オリンピックの延期を決定した。×
- ⑩検察庁長官の報酬は国務大臣の報酬と同額である。○

問3 坂本町の製紙工場の創設にかかわった人物を5名あげよ（例：安場保和）

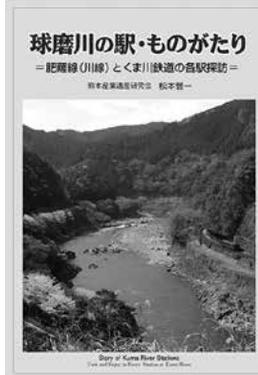
- ①（ 藤村紫朗 ）
- ②（ 上羽勝衛 ）
- ③（ 岡崎唯雄 ）
- ④（ 安場末喜 ）
- ⑤（ 大谷高寛 ）

問4 以下のナンプレ問題を解け（空白マスに適切な数字をいれよ）

7	8	9	2	6	5	1	3	4
5	2	3	1	4	7	6	8	9
6	4	1	9	8	3	7	2	5
8	1	2	6	5	9	4	7	3
9	3	7	8	2	4	5	6	1
4	5	6	3	7	1	8	9	2
5	6	5	4	9	8	2	1	7
2	9	4	7	1	6	3	5	8
1	7	8	5	3	2	9	4	6

問5 アメリカの大統領の名前を10人あげよ（例：ジョージ・ワシントン）

- ①（ トーマス・ジェファーソン ）
- ②（ エイブラム・リンカーン ）
- ③（ セオドア・ルーズベルト ）
- ④（ バラク・オバマ ）
- ⑤（ ジョージ・W・ブッシュ ）
- ⑥（ ビル・クリントン ）
- ⑦（ ロナルド・レーガン ）
- ⑧（ ジミー・カーター ）
- ⑨（ リチャード・ニクソン ）
- ⑩（ ジョン・F・ケネディー ）



球磨川の駅・ものがたり  
— 肥後線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪 —  
熊本産業遺産研究会 松本晋一

# 31連本 駅載誌 がさに 二冊に

球磨川の駅・ものがたり  
＝くま川鉄道の各駅探訪＝  
熊本産業遺産研究会 松本晋一

■A5判 212頁オールカラー  
■定価 1,650円（税込）

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

**発行：人吉中央出版社 0966-23-3759**

## 編集後記

今月も新型コロナウイルス関連の記事が多くなった。各世代、いろんな立場からの寄稿をいただいた。★この春、流域からの情報を発信する二つの冊子が生まれた。「さかもと寄り道BOOK」(3頁)と、「球磨人吉の中世鱔口」(14頁)がそれである。共に地元の魅力伝えるもので、ぜひ手に取ってご覧いただきたい。★先月に引き続き、澤宮優さんの本の紹介させていただいた。まだまだステイホームの間があるようなので、書店から取り寄せたり、ネット通販で入手されたいかがだろう。★創刊号から連載させていた「いた、いわさき楊子さんの「柳人があじわう漱石俳句」が今月で終止符を打った。熊本時代の漱石の話は興味深いものであった。もう一つ、種田山頭火の熊本時代を追った那須智治さんの「山頭火出家の道を巡る」(30頁)にも注目したい。(ま)

〒868-0015  
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部  
Info@hiyoshi.co.jp  
電話・ファックス 0966-23-3759

【おこわり】今月は誌面の都合により「方言を味わう」は休載いたしました。

## 今月の一言

『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より

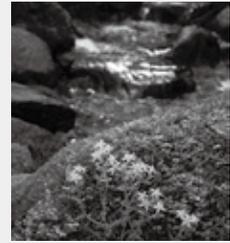
苦しむことの尊さを知らない人は、まだ理性的な生活を、換言すれば真実の生活を始めていない人である。

## 表紙写真「自然はひっそりと、確実に」

— 水上村・球磨川支流のヒメレンゲ

ヒメレンゲは「コマンネンソウ」ともいい、関東以西から九州に分布する多年草。沢沿いの岩上などに群落を形成して生育する。花は4月の終わり頃から5月にかけて群生し、溪谷を彩る。水上村の奥地にも春は来ている。

撮影／遠山幸穂(あさぎり町)



# たけだ眼科クリニック



TAKEDA Eye Clinic

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

# アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

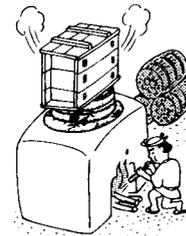
ケアプラン作成所いずみ  
(居宅介護支援事業所)

# いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

## 匠の技



### 御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)



◆玉子かけご飯  
◆豆腐  
◆お刺身に

300ml 650円(税抜)



◆みそ煎餅  
477円(税抜)



◆納豆みそ  
(お徳用)  
300円(税抜)



◆納豆みそ  
477円(税抜)

人吉散策コース 九州特産 蔵めぐり  
**みそ・しょうゆ蔵**



合資会社

釜田醸造所

会長 釜田 元 嘉頭  
社長 釜田 元 嘉頭

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16  
電話 (0966) 22-3164  
FAX (0966) 22-3165  
メール info@marukama.co.jp